

上郡町男女共同参画プラン
策定に向けた
アンケート調査結果報告書

【上郡町男女共同参画に関するアンケート調査】

令和5年1月

上 郡 町

目次

I	調査概要	1
	1 調査の目的	1
	2 調査の方法	1
	3 結果の見方	2
II	調査結果	3
	1 あなた自身のことについて	3
	2 男女平等・性別による役割分担について	9
	3 家庭生活について	14
	4 地域生活について	19
	5 仕事について	23
	6 ワーク・ライフ・バランスについて	31
	7 DV（ドメスティック・バイオレンス）について	36
	8 防災対策・災害復興対策について	46
	9 男女共同参画のまちづくりについて	49
	10 自由意見	56

I 調査概要

1 調査の目的

住民の男女共同参画に関する意識や実態を調査することにより課題を把握し、「上郡町男女共同参画プラン」の策定及び男女共同参画施策の推進における基礎資料として活用することを目的に調査を実施しました。

2 調査の方法

調査名	上郡町男女共同参画に関するアンケート調査
調査対象	満 18 歳以上の町民 2,000 人(10 月 1 日時点)
調査方法	配布:郵送、回答:郵送回答及びインターネット回答のいずれかを選択
調査地域	上郡町全域
調査期間	令和4年 10 月 13 日(木) ~ 10 月 31 日(月)
抽出方法	住民基本台帳から性年代に応じた無作為抽出(層化抽出法)
配布数	2,000 件 ※令和3年度の住民満足度調査(対象者 16 歳以上 2,500 人)の回答率を基に、どの年代も同数程度回収できるよう調整し発送
回収数	535 件
回収率	26.8%

【性年代ごとの配布回収数】

	男性			女性		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
18~20 歳代	250	42	16.8%	172	53	30.8%
30 歳代	232	43	18.5%	118	47	39.8%
40 歳代	163	37	22.7%	163	37	22.7%
50 歳代	105	22	21.0%	107	28	26.2%
60 歳代	168	48	28.6%	182	62	34.1%
70 歳以上	164	50	30.5%	176	52	29.5%
年齢不明	-	-	-	-	3	-
小計	1,082	242	22.4%	918	282	30.7%

性別不明※	-	11	-
合計	2,000	535	26.8%

※問1「その他」「答えたくない」「無回答」の合計

3 結果の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 図表中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問です。
 - ・MA% (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・2LA% (2Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合
- 表中に次のような色付けがある場合は、数値の大きい順に下記の順位を示しています。

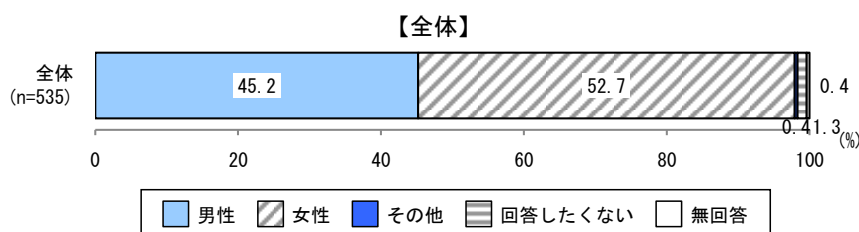
1位	2位	3位
----	----	----
- 図表中の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合があります。

Ⅱ 調査結果

1 あなた自身のことについて

問1 あなたの性別を教えてください。【〇は1つ】

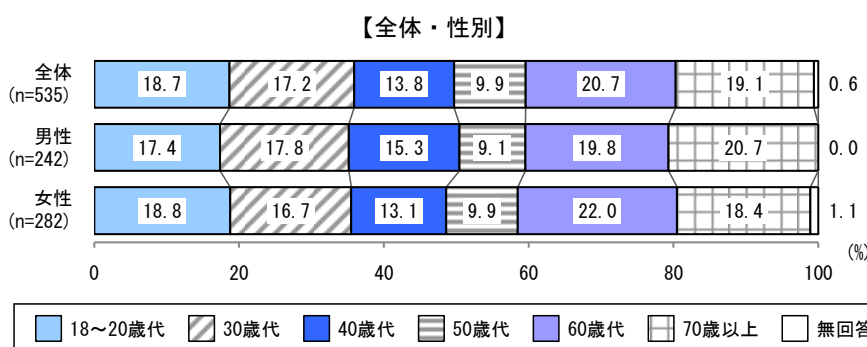
性別は男性が45.2%、女性が52.7%となっています。



問2 あなたの年齢を教えてください。(令和4年10月1日時点)【数字を記入】

年齢は、全体では60歳代が20.7%と最も高く、次いで70歳以上で19.1%となっています。50歳代は9.9%と最も低くなっています。

性別で見ると、それぞれ最も高い年齢は、男性は70歳以上(20.7%)、女性は60歳代(22.0%)となっています。



《参考》上郡町人口構成比(15歳~79歳)

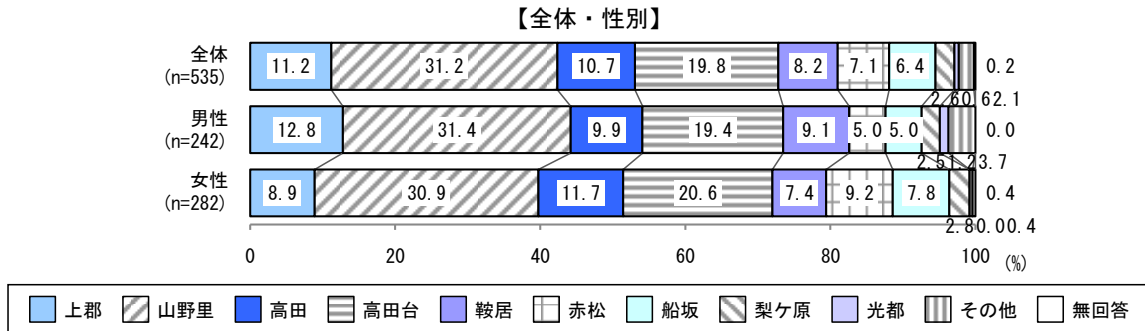
		15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳
全体	人	654	1,048	1,148	1,666	1,825	2,297	2,630
	%	5.8	9.3	10.2	14.8	16.2	20.4	23.3
男性	人	347	566	621	866	905	1,126	1,262
	%	6.1	9.9	10.9	15.2	15.9	19.8	22.2
女性	人	307	482	527	800	920	1,171	1,368
	%	5.5	8.6	9.5	14.3	16.5	21.0	24.5

資料：住民基本台帳（令和4年1月1日時点）

問3 あなたの住んでおられる地区を教えてください。【〇は1つ】

居住地区は、全体では「山野里」が31.2%と最も高く、次いで「高田台」が19.8%となっています。性別でも概ね同傾向となっています。

性年代別で見ると、男女とも若い年代で「山野里」の割合が高い傾向となっています。



【性年代別】 (%)

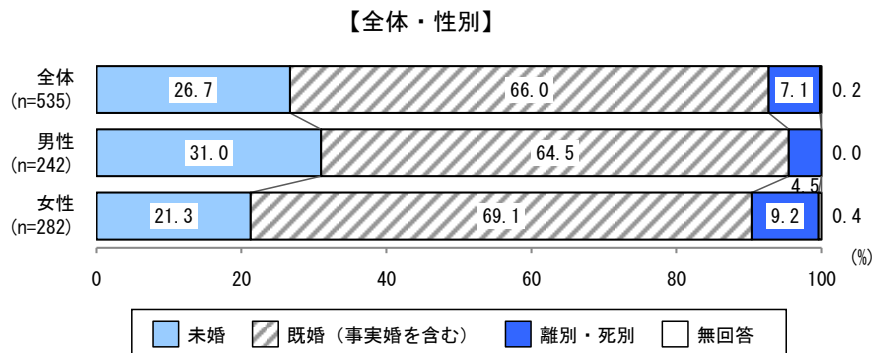
		回答者数	上郡	山野里	高田	高田台	鞍居	赤松	船坂	梨ヶ原	光都	その他
男性	18~20歳代	42	7.1	40.5	4.8	23.8	11.9	2.4	2.4	0.0	0.0	7.1
	30~40歳代	80	15.0	43.8	10.0	17.5	5.0	3.8	1.3	1.3	1.3	1.3
	50~60歳代	70	7.1	25.7	15.7	18.6	8.6	8.6	4.3	5.7	2.9	2.9
	70歳以上	50	22.0	12.0	6.0	20.0	14.0	4.0	14.0	2.0	0.0	6.0
女性	18~20歳代	53	9.4	41.5	7.5	18.9	3.8	7.5	9.4	0.0	0.0	1.9
	30~40歳代	84	10.7	35.7	10.7	21.4	4.8	7.1	7.1	2.4	0.0	0.0
	50~60歳代	90	5.6	27.8	13.3	21.1	10.0	12.2	4.4	5.6	0.0	0.0
	70歳以上	52	9.6	19.2	15.4	21.2	9.6	9.6	13.5	1.9	0.0	0.0

問4 あなたは、結婚していますか。【〇は1つ】

婚姻について、全体では「既婚（事実婚を含む）」が66.0%となっています。

性別では、既婚者の割合は男性が64.5%、女性が69.1%となっており、女性の既婚率が高くなっています。

性年代別で見ると、どの年代においても女性の既婚率が高く、30~40歳代では、男性は「未婚」が3割以上に上り、女性（14.3%）との差が大きくなっています。



【性年代別】

		回答者数	未婚	既婚（を含む） （事実婚）	離別・死別
男性	18～20歳代	42	88.1	11.9	0.0
	30～40歳代	80	31.3	63.8	5.0
	50～60歳代	70	15.7	78.6	5.7
	70歳以上	50	4.0	90.0	6.0
女性	18～20歳代	53	81.1	15.1	3.8
	30～40歳代	84	14.3	81.0	4.8
	50～60歳代	90	5.6	85.6	8.9
	70歳以上	52	0.0	78.8	21.2

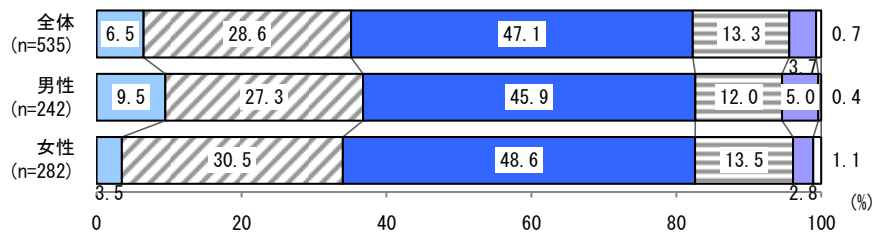
問5 あなたのご家族(同居)の構成は、次のどれにあたりますか。【○は1つ】

家族構成として割合が最も高いのが、「親と子（2世代世帯）」の47.1%となっています。

性別でも、「親と子（2世代世帯）」の割合が最も高く、男性で45.9%、女性で48.6%となっています。

性年代別では、男女とも40歳代以下では「親と子（2世代世帯）」の割合が最も高く、50歳代以上では「夫婦だけ」が最も高くなっています。男性の50歳代以上については「一人暮らし(単身世帯)」の割合も1割を超え、比較的高くなっています。

【全体・性別】



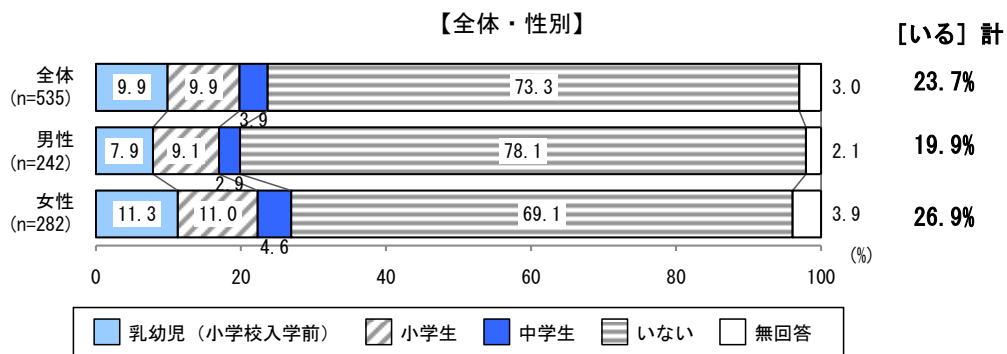
■ 一人暮らし (単身世帯) ■ 夫婦だけ ■ 親と子 (2世代世帯) ■ 祖父母と親と子 (3世代世帯) ■ その他 □ 無回答

【性年代別】

		回答者数	一人暮らし (単身世帯)	夫婦だけ	親と子 (2世代世帯)	祖父母と親と子 (3世代世帯)	その他	無回答
男性	18～20歳代	42	4.8	4.8	50.0	38.1	2.4	0.0
	30～40歳代	80	7.5	11.3	68.8	8.8	3.8	0.0
	50～60歳代	70	14.3	40.0	28.6	8.6	7.1	1.4
	70歳以上	50	10.0	54.0	30.0	0.0	6.0	0.0
女性	18～20歳代	53	0.0	9.4	67.9	22.6	0.0	0.0
	30～40歳代	84	0.0	9.5	72.6	13.1	3.6	1.2
	50～60歳代	90	7.8	44.4	31.1	12.2	3.3	1.1
	70歳以上	52	5.8	61.5	21.2	7.7	3.8	0.0

問6 中学生以下の子ども(同居)がいますか。いる場合、一番年齢の小さな子どもは次のどれにあてはまりますか。【〇は1つ】

中学生以下の子どもの有無について「いない」と答えた人の割合は、全体で73.3%となっています。性別でも、「いない」と回答したのは、男性で78.1%、女性で69.1%と最も高くなっています。性年代別では、男女とも30～40歳代において、「乳幼児（小学校入学前）」、「小学生」、「中学生」のいずれかの中学生以下の子どもが「いる」割合が最も高く、男性47.6%、女性67.9%となっています。



【性年代別】

		回答者数	(乳幼児 小学校入学前)	小学生	中学生	いない	無回答	「いる」 合計 (%)
男性	18～20歳代	42	4.8	7.1	4.8	81.0	2.4	16.7
	30～40歳代	80	21.3	21.3	5.0	52.5	0.0	47.6
	50～60歳代	70	0.0	1.4	0.0	95.7	2.9	1.4
	70歳以上	50	0.0	2.0	2.0	92.0	4.0	4.0
女性	18～20歳代	53	11.3	1.9	5.7	81.1	0.0	18.9
	30～40歳代	84	31.0	32.1	4.8	29.8	2.4	67.9
	50～60歳代	90	0.0	1.1	4.4	88.9	5.6	5.5
	70歳以上	52	0.0	3.8	3.8	84.6	7.7	7.6

(%)

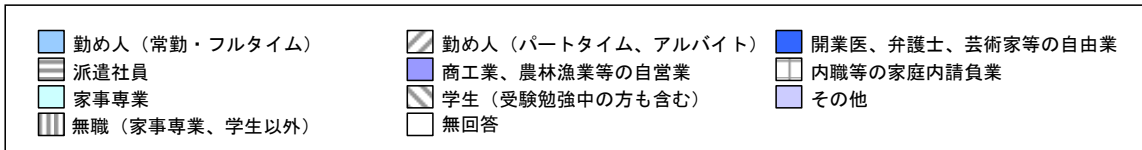
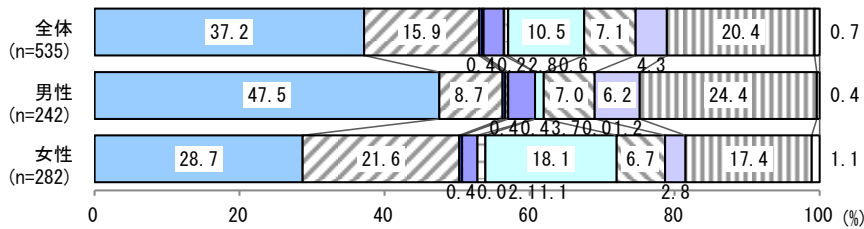
問7 あなたの現在のご職業に最も近いものはどれですか。【〇は1つ】

職業は、全体では「勤め人（常勤・フルタイム）」が37.2%と最も高く、次いで「無職（家事専業、学生以外）」が20.4%と高くなっています。

性別では、男性は「勤め人（常勤・フルタイム）」が47.5%と約半数を占める一方、女性は「勤め人（常勤・フルタイム）」、「勤め人（パートタイム、アルバイト）」、「家事専業」がそれぞれ2割台前後となっています。「無職（家事専業、学生以外）」は男性24.4%、女性17.4%と、男性の方が高くなっています。

性年代別で見ると、男性は60歳代以下では「勤め人（常勤・フルタイム）」、70歳以上では「無職（家事専業、学生以外）」の割合が高くなっています。女性は40歳代以下では「勤め人（常勤・フルタイム）」が約半数を占めますが、50歳以上では「家事専業」の割合が高くなっています。

【全体・性別】



【性年代別】

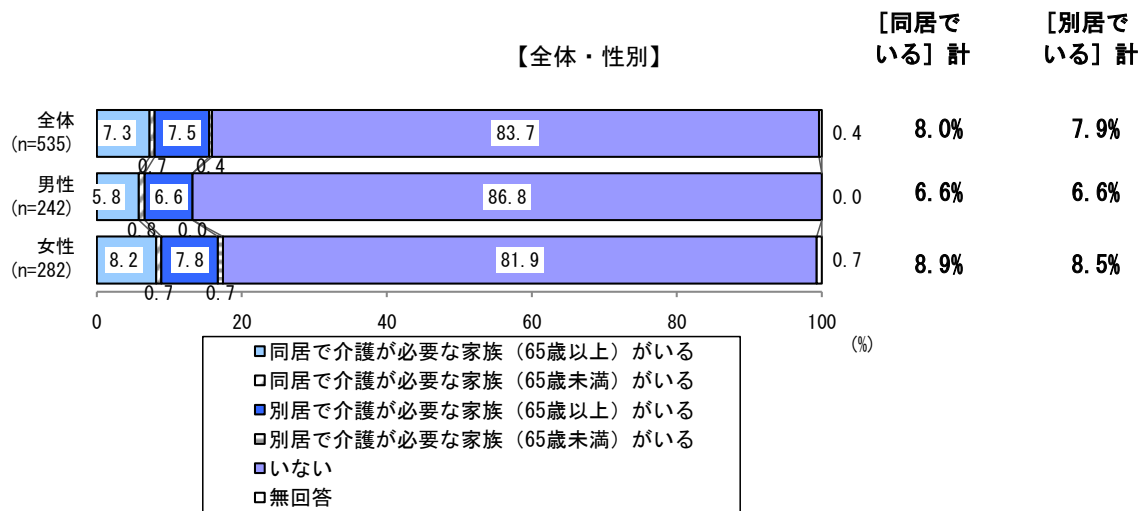
		回答者数	勤め人 (常勤・フルタイム)	勤め人 (パートタイム、アルバイト)	開業医、弁護士、芸術家等の自由業	派遣社員	商工業、農林漁業等の自営業	内職等の家庭内請負業	家事専業	学生 (受験勉強中の方も含む)	その他	無職 (家事専業、学生以外)	無回答
男性	18~20歳代	42	50.0	4.8	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	38.1	2.4	2.4	0.0
	30~40歳代	80	72.5	7.5	1.3	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	7.5	3.8	0.0
	50~60歳代	70	47.1	17.1	0.0	0.0	1.4	0.0	1.4	1.4	4.3	27.1	0.0
	70歳以上	50	6.0	2.0	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	0.0	10.0	72.0	2.0
女性	18~20歳代	53	41.5	13.2	0.0	0.0	1.9	0.0	1.9	35.8	0.0	5.7	0.0
	30~40歳代	84	41.7	29.8	1.2	0.0	3.6	3.6	8.3	0.0	3.6	7.1	1.2
	50~60歳代	90	25.6	26.7	0.0	0.0	2.2	0.0	25.6	0.0	5.6	14.4	0.0
	70歳以上	52	1.9	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	38.5	0.0	0.0	50.0	1.9

問8 あなたの家族に介護が必要な方がいますか。【〇は1つ】

介護が必要な家族の有無では、「いない」と答えた割合が全体で83.7%を占めています。

性別でみても、「いない」の割合が男女ともに8割を超えています。

性年代別では、すべての世代で「いない」の割合が大半を占めていますが、女性の50歳代以上に於いて「同居で介護が必要な家族（65歳以上）がいる」が1割を超え、比較的高くなっています。



【性年代別】

		回答者数	(同居で介護が必要な家族 (65歳以上) がいる)	(同居で介護が必要な家族 (65歳未満) がいる)	(別居で介護が必要な家族 (65歳以上) がいる)	(別居で介護が必要な家族 (65歳未満) がいる)	いない	無回答	計 (%)	
									同居でいる]	別居でいる]
男性	18~20歳代	42	7.1	2.4	4.8	0.0	85.7	0.0	9.5	4.8
	30~40歳代	80	3.8	0.0	12.5	0.0	83.8	0.0	3.8	12.5
	50~60歳代	70	7.1	0.0	5.7	0.0	87.1	0.0	7.1	5.7
	70歳以上	50	6.0	2.0	0.0	0.0	92.0	0.0	8.0	0.0
女性	18~20歳代	53	3.8	1.9	13.2	1.9	79.2	0.0	5.7	15.1
	30~40歳代	84	1.2	1.2	3.6	1.2	92.9	0.0	2.4	4.8
	50~60歳代	90	14.4	0.0	12.2	0.0	72.2	1.1	14.4	12.2
	70歳以上	52	13.5	0.0	1.9	0.0	82.7	1.9	13.5	1.9

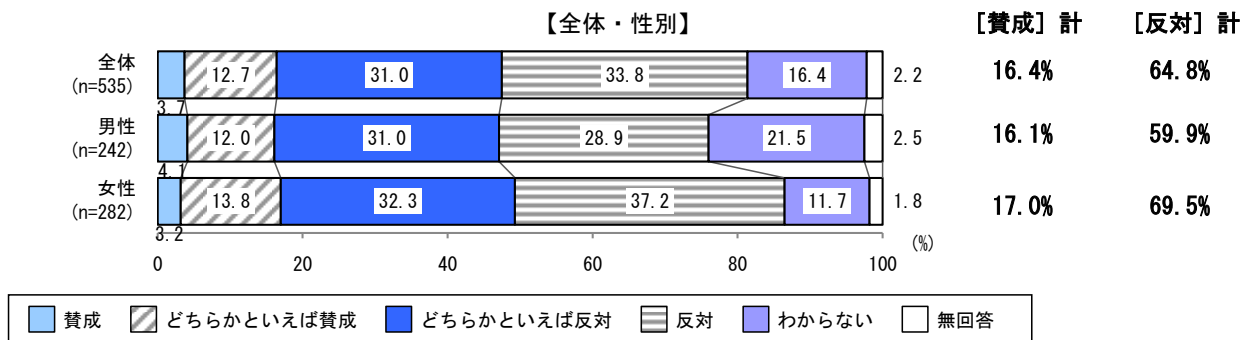
2 男女平等・性別による役割分担について

問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。【○は1つ】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対して、全体では「反対」が33.8%、「どちらかといえば反対」が31.0%となっており、両者を合計した「反対」の割合が64.8%と過半数を占めています。

性別では、「反対」合計が、男性59.9%、女性69.5%と、女性が約10ポイント高くなっており、男性では「わからない」が女性より約10ポイント高くなっています。

性年代別にみると、「反対」合計については、男性では50～60歳代（67.2%）が最も高く、女性では18～20歳代（75.5%）、50～60歳代（73.3%）が7割を超えています。



【性年代別】

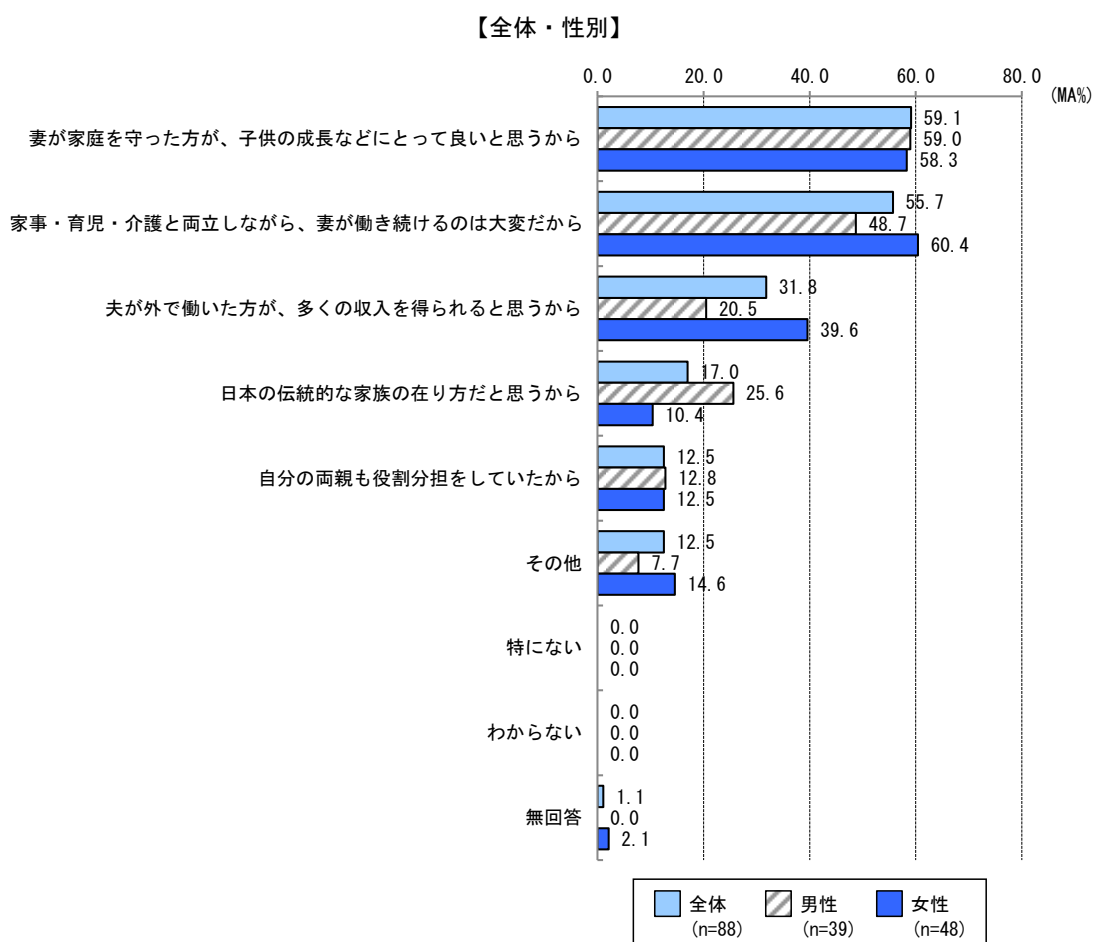
		回答者数	賛成	賛成 どちらか といえば	ど ち ら か と い え ば 反 対	反 対	わ か ら な い	無 回 答	(%)	
									「賛成」 合計	「反対」 合計
男性	18～20歳代	42	9.5	11.9	33.3	23.8	21.4	0.0	21.4	57.1
	30～40歳代	80	2.5	11.3	23.8	33.8	27.5	1.3	13.8	57.6
	50～60歳代	70	2.9	10.0	34.3	32.9	17.1	2.9	12.9	67.2
	70歳以上	50	4.0	16.0	36.0	20.0	18.0	6.0	20.0	56.0
女性	18～20歳代	53	1.9	15.1	13.2	62.3	7.5	0.0	17.0	75.5
	30～40歳代	84	1.2	19.0	27.4	39.3	13.1	0.0	20.2	66.7
	50～60歳代	90	5.6	10.0	43.3	30.0	8.9	2.2	15.6	73.3
	70歳以上	52	3.8	11.5	38.5	21.2	19.2	5.8	15.3	59.7

問9で、「1.賛成」又は「2.どちらかといえば賛成」と答えた方のみお答えください。

問9-1 それはなぜですか。この中からいくつでもあげてください。【あてはまるものすべてに○】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対して「賛成」と回答した理由については、全体としては「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が59.1%と最も高く、次いで「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けるのは大変だから」が55.7%となっています。

性別で見ると、女性で最も割合が高いのは「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けるのは大変だから」が60.4%で男性より11.7ポイント高く、また、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が39.6%で男性より19.1ポイントも高くなっています。一方男性は「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」が25.6%で女性より15.2ポイント高くなっています。

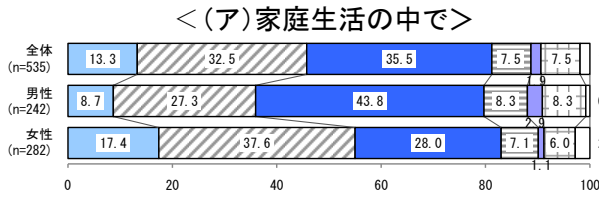
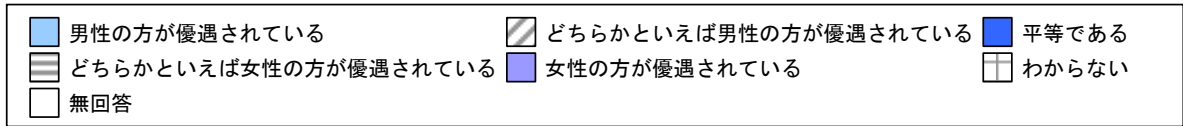


問 10 あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。1から6の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。【(ア)～(ク)それぞれに1つずつ〇】

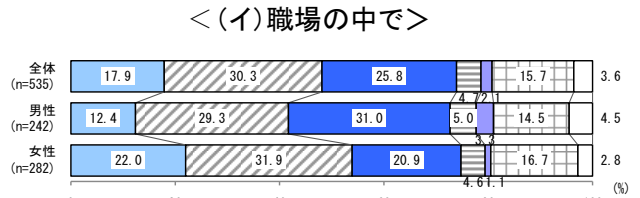
男女の地位の平等感については、<(ウ)学校教育の場で>を除く各項目で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した[男性優遇]の割合が高くなっています。特に<(エ)政治の場で>、<(カ)社会通念・慣習・しきたり等>では、『男性が優遇されている』が7割を超えています。

性別では、すべての項目において、女性の方が[男性優遇]の割合が高く、性別によって認識に差異がみられます。

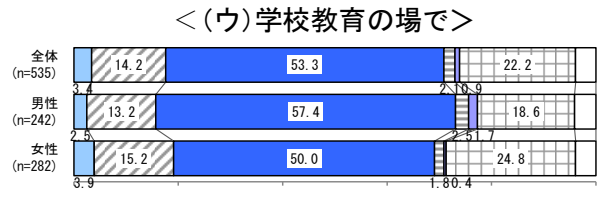
【全体・性別】



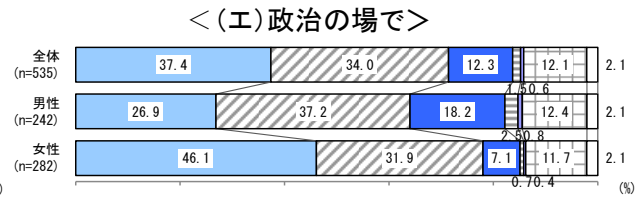
[男性優遇] 計：(全体) 45.8% (男性) 36.0% (女性) 55.0%
[女性優遇] 計：(全体) 9.4% (男性) 11.2% (女性) 8.2%



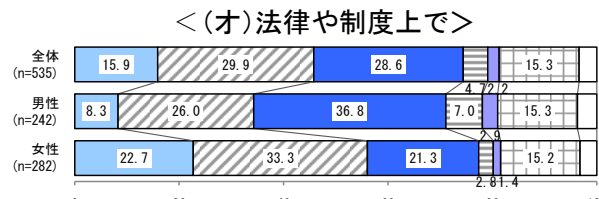
[男性優遇] 計：(全体) 48.2% (男性) 41.7% (女性) 53.9%
[女性優遇] 計：(全体) 6.8% (男性) 8.3% (女性) 5.7%



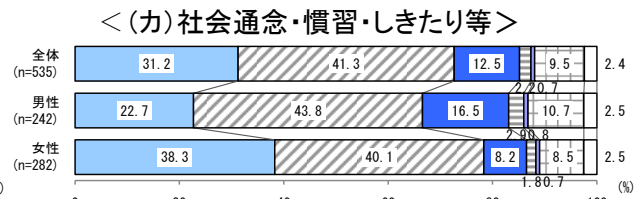
[男性優遇] 計：(全体) 17.6% (男性) 15.7% (女性) 19.1%
[女性優遇] 計：(全体) 3.0% (男性) 4.2% (女性) 2.2%



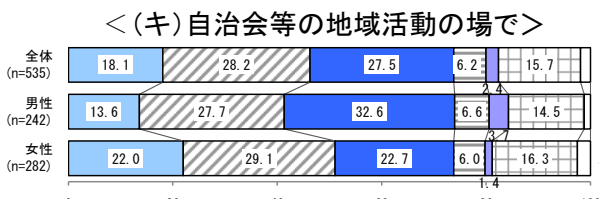
[男性優遇] 計：(全体) 71.4% (男性) 64.1% (女性) 78.0%
[女性優遇] 計：(全体) 2.1% (男性) 3.3% (女性) 1.1%



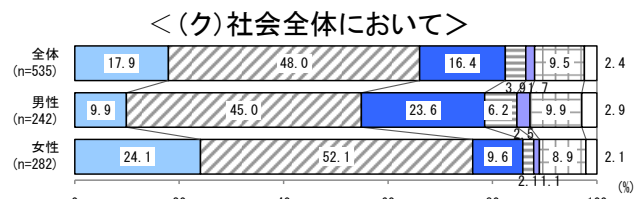
[男性優遇] 計：(全体) 45.8% (男性) 34.3% (女性) 56.0%
[女性優遇] 計：(全体) 6.9% (男性) 9.9% (女性) 4.2%



[男性優遇] 計：(全体) 72.5% (男性) 66.5% (女性) 78.4%
[女性優遇] 計：(全体) 2.9% (男性) 3.7% (女性) 2.5%



[男性優遇] 計：(全体) 46.3% (男性) 41.3% (女性) 51.1%
[女性優遇] 計：(全体) 8.6% (男性) 10.3% (女性) 7.4%



[男性優遇] 計：(全体) 65.9% (男性) 54.9% (女性) 76.2%
[女性優遇] 計：(全体) 5.6% (男性) 8.7% (女性) 3.2%

性年代別でみると、比較的世代間で差がみられた項目は、＜（ア）家庭生活の中で＞、＜（イ）職場の中で＞、＜（オ）法律や制度上で＞となっています。

＜（ア）家庭生活の中で＞では、男女ともに[男性優遇]が最も高いのは50～60歳代で、男性51.4%、女性64.4%となっています。女性においては年代が上がるにつれ[男性優遇]の割合が高くなる傾向がみられます。なお、男性では50～60歳代を除くすべての年代で「平等である」の割合が最高となっています。

＜（イ）職場の中で＞では、男女とも上の年代ほど[男性優遇]の割合が高くなる傾向がみられ、若い年代では「平等である」の割合が比較的高くなっています。

＜（オ）法律や制度上で＞では、男性の18～20歳代では[男性優遇]が半数を占めますが、それ以上の世代ではその割合が下がり、「平等である」の割合が最高となっています。女性では70歳以上のみ「平等である」の割合が最高で、[男性優遇]が4割程度と比較的低く、それ以下の世代では、[男性優遇]の割合が過半数を占め高くなっています。

【性年代別】

		回答者数	男性の方が優遇	男性どちらの方が優遇さば	平等である	女性どちらの方が優遇さば	女性の方が優遇	わからない	無回答	(%)	
										「男性優遇」合計	「女性優遇」合計
(ア) 家庭生活の中で											
男性	18～20歳代	42	14.3	14.3	42.9	9.5	4.8	11.9	2.4	28.6	14.3
	30～40歳代	80	6.3	22.5	46.3	11.3	3.8	10.0	0.0	28.8	15.1
	50～60歳代	70	7.1	44.3	37.1	4.3	0.0	7.1	0.0	51.4	4.3
	70歳以上	50	10.0	22.0	50.0	8.0	4.0	4.0	2.0	32.0	12.0
女性	18～20歳代	53	13.2	26.4	34.0	11.3	1.9	13.2	0.0	39.6	13.2
	30～40歳代	84	14.3	35.7	32.1	8.3	1.2	7.1	1.2	50.0	9.5
	50～60歳代	90	20.0	44.4	22.2	4.4	1.1	3.3	4.4	64.4	5.5
	70歳以上	52	21.2	40.4	25.0	5.8	0.0	1.9	5.8	61.6	5.8
(イ) 職場の中で											
男性	18～20歳代	42	14.3	19.0	31.0	2.4	2.4	28.6	2.4	33.3	4.8
	30～40歳代	80	12.5	23.8	36.3	7.5	6.3	12.5	1.3	36.3	13.8
	50～60歳代	70	11.4	38.6	30.0	7.1	1.4	10.0	1.4	50.0	8.5
	70歳以上	50	12.0	34.0	24.0	0.0	2.0	12.0	16.0	46.0	2.0
女性	18～20歳代	53	24.5	20.8	26.3	5.7	1.9	18.9	0.0	45.3	7.6
	30～40歳代	84	21.4	34.5	20.2	8.3	2.4	13.1	0.0	55.9	10.7
	50～60歳代	90	20.0	32.2	23.3	1.1	0.0	20.0	3.3	52.2	1.1
	70歳以上	52	23.1	38.5	11.5	1.9	0.0	15.4	9.6	61.6	1.9
(ウ) 学校教育の場で											
男性	18～20歳代	42	2.4	11.9	59.5	4.8	2.4	19.0	0.0	14.3	7.2
	30～40歳代	80	1.3	11.3	58.8	2.5	2.5	22.5	1.3	12.6	5.0
	50～60歳代	70	4.3	14.3	58.6	2.9	0.0	17.1	2.9	18.6	2.9
	70歳以上	50	2.0	16.0	52.0	0.0	2.0	14.0	14.0	18.0	2.0
女性	18～20歳代	53	3.8	22.6	58.5	3.8	0.0	11.3	0.0	26.4	3.8
	30～40歳代	84	1.2	16.7	51.2	3.6	1.2	26.2	0.0	17.9	4.8
	50～60歳代	90	4.4	7.8	44.4	0.0	0.0	37.8	5.6	12.2	0.0
	70歳以上	52	7.7	17.3	48.1	0.0	0.0	15.4	11.5	25.0	0.0
(エ) 政治の場で											
男性	18～20歳代	42	35.7	28.6	16.7	4.8	2.4	11.9	0.0	64.3	7.2
	30～40歳代	80	27.5	32.5	18.8	2.5	1.3	17.5	0.0	60.0	3.8
	50～60歳代	70	28.6	42.9	15.7	2.9	0.0	8.6	1.4	71.5	2.9
	70歳以上	50	16.0	44.0	22.0	0.0	0.0	10.0	8.0	60.0	0.0
女性	18～20歳代	53	60.4	18.9	9.4	0.0	0.0	11.3	0.0	79.3	0.0
	30～40歳代	84	50.0	32.1	6.0	2.4	0.0	9.5	0.0	82.1	2.4
	50～60歳代	90	37.8	38.9	5.6	0.0	0.0	14.4	3.3	76.7	0.0
	70歳以上	52	40.4	30.8	9.6	0.0	1.9	11.5	5.8	71.2	1.9

(%)

		回答者数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇さ	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇さ	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	「男性優遇」合計	「女性優遇」合計
(オ) 法律や制度上で											
男性	18～20歳代	42	14.3	35.7	16.7	7.1	2.4	19.0	4.8	50.0	9.5
	30～40歳代	80	11.3	15.0	32.5	11.3	6.3	23.8	0.0	26.3	17.6
	50～60歳代	70	5.7	31.4	45.7	5.7	1.4	8.6	1.4	37.1	7.1
	70歳以上	50	2.0	28.0	48.0	2.0	0.0	8.0	12.0	30.0	2.0
女性	18～20歳代	53	32.1	20.8	15.1	7.5	0.0	24.5	0.0	52.9	7.5
	30～40歳代	84	29.8	33.3	20.2	2.4	1.2	13.1	0.0	63.1	3.6
	50～60歳代	90	13.3	44.4	22.2	1.1	3.3	12.2	3.3	57.7	4.4
	70歳以上	52	19.2	25.0	26.9	1.9	0.0	15.4	11.5	44.2	1.9
(カ) 社会通念・慣習・しきたり等											
男性	18～20歳代	42	33.3	35.7	9.5	7.1	0.0	14.3	0.0	69.0	7.1
	30～40歳代	80	23.8	35.0	21.3	2.5	1.3	15.0	1.3	58.8	3.8
	50～60歳代	70	20.0	52.9	15.7	2.9	1.4	5.7	1.4	72.9	4.3
	70歳以上	50	16.0	52.0	16.0	0.0	0.0	8.0	8.0	68.0	0.0
女性	18～20歳代	53	49.1	20.8	11.3	7.5	0.0	11.3	0.0	69.9	7.5
	30～40歳代	84	39.3	41.7	7.1	0.0	2.4	9.5	0.0	81.0	2.4
	50～60歳代	90	34.4	46.7	6.7	1.1	0.0	7.8	3.3	81.1	1.1
	70歳以上	52	32.7	44.2	9.6	0.0	0.0	5.8	7.7	76.9	0.0
(キ) 自治会等の地域活動の場で											
男性	18～20歳代	42	14.3	28.6	26.2	4.8	4.8	21.4	0.0	42.9	9.6
	30～40歳代	80	8.8	22.5	33.8	7.5	5.0	22.5	0.0	31.3	12.5
	50～60歳代	70	20.0	28.6	31.4	10.0	2.9	7.1	0.0	48.6	12.9
	70歳以上	50	12.0	34.0	38.0	2.0	2.0	6.0	6.0	46.0	4.0
女性	18～20歳代	53	30.2	11.3	26.4	5.7	0.0	26.4	0.0	41.5	5.7
	30～40歳代	84	19.0	34.5	20.2	7.1	1.2	17.9	0.0	53.5	8.3
	50～60歳代	90	17.8	37.8	17.8	5.6	3.3	13.3	4.4	55.6	8.9
	70歳以上	52	25.0	23.1	32.7	5.8	0.0	7.7	5.8	48.1	5.8
(ク) 社会全体において											
男性	18～20歳代	42	7.1	52.4	21.4	9.5	2.4	7.1	0.0	59.5	11.9
	30～40歳代	80	11.3	33.8	26.3	11.3	3.8	12.5	1.3	45.1	15.1
	50～60歳代	70	10.0	52.9	21.4	1.4	2.9	10.0	1.4	62.9	4.3
	70歳以上	50	10.0	46.0	24.0	2.0	0.0	8.0	10.0	56.0	2.0
女性	18～20歳代	53	34.0	41.5	13.2	1.9	0.0	9.4	0.0	75.5	1.9
	30～40歳代	84	22.6	56.0	4.8	6.0	1.2	9.5	0.0	78.6	7.2
	50～60歳代	90	20.0	54.4	10.0	0.0	2.2	8.9	4.4	74.4	2.2
	70歳以上	52	23.1	51.9	13.5	0.0	0.0	7.7	3.8	75.0	0.0

3 家庭生活について

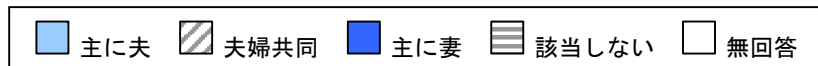
配偶者またはパートナーと同居している方にお聞きします。

問 11 日常的な家事・仕事等の役割分担についてお伺いします。「A現状」と「B理想」の両方についてお答えください。【(ア)～(カ)それぞれに1つずつ〇】

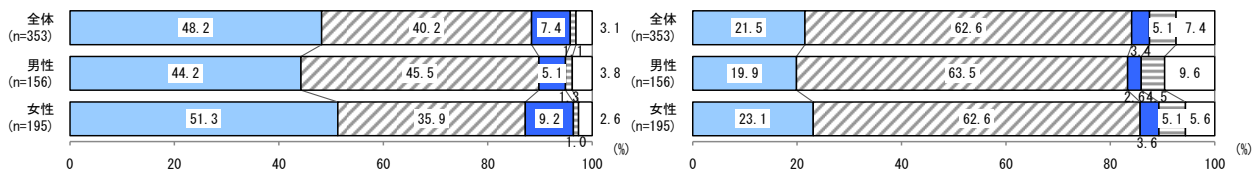
家事・仕事等の役割分担では、【B理想】としては、すべての項目で「夫婦共同」を望む割合が最も高くなっている一方、【A現状】では、＜(ア)生活費の確保＞は「主に夫」の割合が高く、それ以外の家事に関わる項目では「主に女性」の割合が多くを占めています。

性別にみると、家事に関する項目において、「主に女性」が担っていると感じる割合は、女性の方が男性を上回っており、男性の意識以上に女性は自己の役割の比重を大きく認識しています。

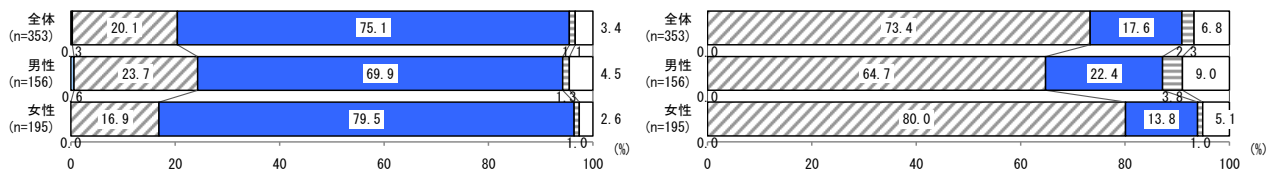
【全体・性別】



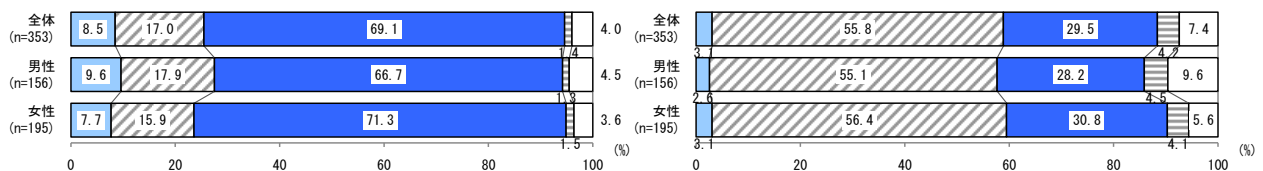
＜(ア)生活費の確保＞



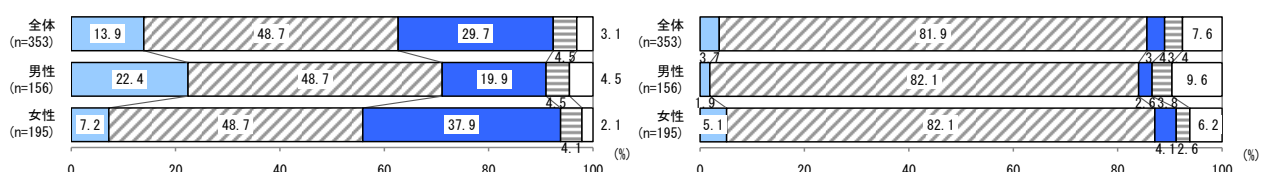
＜(イ)家事(洗濯・掃除・食事の支度など)＞



＜(ウ)日常の家計管理＞



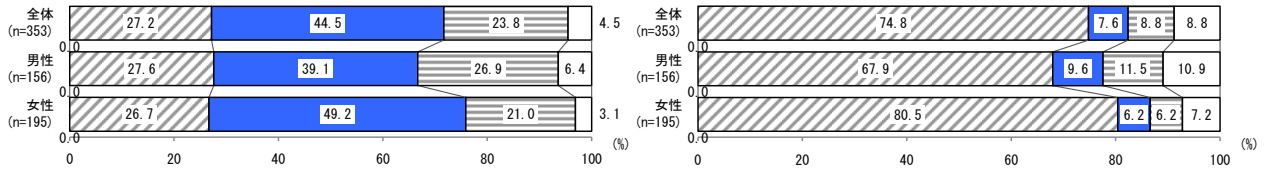
＜(エ)学校・地域の行事参加、近所とのつきあい＞



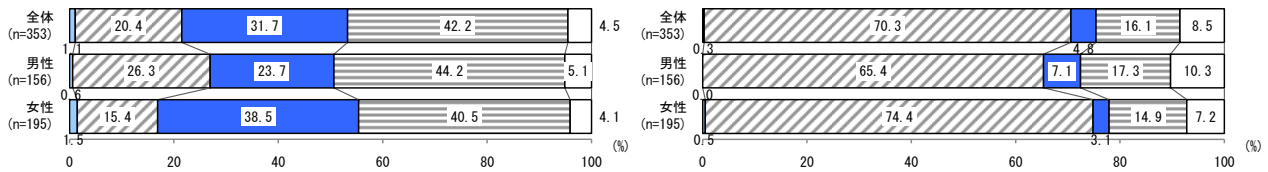
A 現状

B 理想

<(オ)子どもの世話>



<(カ)お年寄り、病人の世話・介護>



性年代別でみると（「18～20 歳代」は回答者数が少数のため考察から除く）、

<(ア)生活費の確保>では、【A現状】において、30～60 歳代の現役世代を含む層では、男性の方が「夫婦共同」と感じている割合が女性より高くなっています。【B理想】においては、男女とも「夫婦共同」を望む割合が最も高いものの、女性の30～40 歳代では「主に夫」を望む割合も約4割と高くなっています。

<(イ)家事（洗濯・掃除・食事の支度など）>では、【A現状】において、男女とも40 歳代以下と50 歳代以上とで差がみられ、40 歳代以下は上の年代と比べると「夫婦共同」が比較的高くなっています。【B理想】においては、どの年代の男女とも「夫婦共同」を望む割合が最も高いものの、70 歳以上の男性では「主に妻」を望む割合も3割と高くなっています。

<(ウ)日常の家計管理>では、【A現状】においては、男女とも上の年代ほど「主に妻」の割合が高い傾向にあります。【B理想】においては、男女とも「夫婦共同」を望む割合が最も高いものの、「主に妻」を望む割合もどの世代でも2～3割となっており、比較的高い傾向です。

<(オ)子どもの世話>では、30～40 歳代の男性は「夫婦共同」（45.1%）が最も高い一方、女性では「主に妻」（54.4%）が最も高くなっており、子育て世代で現状認識に男女差がみられます。

【性年代別】

(%)

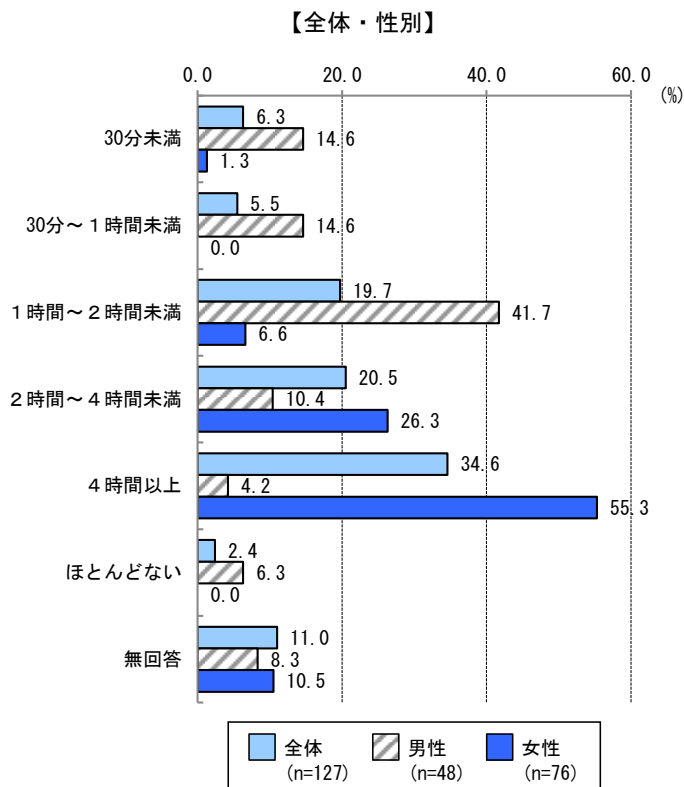
		A 現状					B 理想					
		回答者数	主に夫	夫婦共同	主に妻	該当しない	無回答	主に夫	夫婦共同	主に妻	該当しない	無回答
(ア) 生活費の確保												
男性	18～20歳代	5	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	30～40歳代	51	41.2	51.0	2.0	2.0	3.9	21.6	62.7	2.0	7.8	5.9
	50～60歳代	55	49.1	45.5	3.6	0.0	1.8	16.4	74.5	1.8	3.6	3.6
	70歳以上	45	37.8	42.2	11.1	2.2	6.7	15.6	55.6	4.4	2.2	22.2
女性	18～20歳代	8	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0
	30～40歳代	68	51.5	39.7	7.4	0.0	1.5	39.7	48.5	5.9	4.4	1.5
	50～60歳代	77	54.5	28.6	11.7	2.6	2.6	10.4	76.6	2.6	5.2	5.2
	70歳以上	41	39.0	46.3	9.8	0.0	4.9	17.1	58.5	2.4	7.3	14.6
(イ) 家事(洗濯・掃除・食事の支度など)												
男性	18～20歳代	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30～40歳代	51	0.0	39.2	56.9	2.0	2.0	0.0	72.5	19.6	3.9	3.9
	50～60歳代	55	0.0	9.1	87.3	1.8	1.8	0.0	69.1	20.0	7.3	3.6
	70歳以上	45	2.2	22.2	64.4	0.0	11.1	0.0	46.7	31.1	0.0	22.2
女性	18～20歳代	8	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0
	30～40歳代	68	0.0	26.5	70.6	1.5	1.5	0.0	88.2	10.3	0.0	1.5
	50～60歳代	77	0.0	7.8	87.0	1.3	3.9	0.0	79.2	15.6	1.3	3.9
	70歳以上	41	0.0	14.6	82.9	0.0	2.4	0.0	70.7	12.2	2.4	14.6
(ウ) 日常の家計管理												
男性	18～20歳代	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0
	30～40歳代	51	15.7	29.4	51.0	2.0	2.0	7.8	56.9	25.5	5.9	3.9
	50～60歳代	55	9.1	12.7	74.5	1.8	1.8	0.0	63.6	25.5	7.3	3.6
	70歳以上	45	4.4	8.9	75.6	0.0	11.1	0.0	44.4	31.1	0.0	24.4
女性	18～20歳代	8	12.5	37.5	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	30～40歳代	68	13.2	19.1	63.2	2.9	1.5	5.9	58.8	32.4	1.5	1.5
	50～60歳代	77	3.9	14.3	76.6	1.3	3.9	1.3	57.1	29.9	6.5	5.2
	70歳以上	41	4.9	7.3	80.5	0.0	7.3	2.4	51.2	26.8	4.9	14.6
(エ) 学校・地域の行事参加、近所とのつきあい												
男性	18～20歳代	5	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30～40歳代	51	13.7	52.9	23.5	7.8	2.0	3.9	84.3	5.9	2.0	3.9
	50～60歳代	55	27.3	45.5	23.6	1.8	1.8	1.8	87.3	0.0	7.3	3.6
	70歳以上	45	28.9	46.7	11.1	2.2	11.1	0.0	71.1	2.2	2.2	24.4
女性	18～20歳代	8	0.0	62.5	25.0	12.5	0.0	12.5	87.5	0.0	0.0	0.0
	30～40歳代	68	5.9	41.2	50.0	1.5	1.5	4.4	86.8	5.9	0.0	2.9
	50～60歳代	77	7.8	54.5	32.5	2.6	2.6	5.2	84.4	2.6	1.3	6.5
	70歳以上	41	9.8	48.8	31.7	7.3	2.4	4.9	70.7	4.9	7.3	12.2
(オ) 子どもの世話												
男性	18～20歳代	5	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30～40歳代	51	0.0	45.1	39.2	13.7	2.0	0.0	80.4	9.8	5.9	3.9
	50～60歳代	55	0.0	20.0	52.7	23.6	3.6	0.0	72.7	9.1	12.7	5.5
	70歳以上	45	0.0	15.6	22.2	46.7	15.6	0.0	44.4	11.1	17.8	26.7
女性	18～20歳代	8	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0
	30～40歳代	68	0.0	36.8	54.4	7.4	1.5	0.0	92.6	5.9	0.0	1.5
	50～60歳代	77	0.0	16.9	49.4	31.2	2.6	0.0	77.9	5.2	10.4	6.5
	70歳以上	41	0.0	22.0	43.9	26.8	7.3	0.0	65.9	7.3	7.3	19.5
(カ) お年寄り、病人の世話・介護												
男性	18～20歳代	5	0.0	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	80.0	0.0	20.0	0.0
	30～40歳代	51	0.0	25.5	9.8	62.7	2.0	0.0	68.6	3.9	23.5	3.9
	50～60歳代	55	1.8	32.7	38.2	25.5	1.8	0.0	76.4	5.5	12.7	5.5
	70歳以上	45	0.0	20.0	22.2	44.4	13.3	0.0	46.7	13.3	15.6	24.4
女性	18～20歳代	8	0.0	25.0	37.5	37.5	0.0	0.0	50.0	12.5	37.5	0.0
	30～40歳代	68	1.5	19.1	20.6	57.4	1.5	1.5	73.5	0.0	23.5	1.5
	50～60歳代	77	2.6	7.8	51.9	32.5	5.2	0.0	83.1	2.6	6.5	7.8
	70歳以上	41	0.0	22.0	43.9	26.8	7.3	0.0	65.9	7.3	9.8	17.1

問 12 は、中学生以下の子どもがいる方のみお答えください。

問 12 あなたが1日に家事・育児に費やす時間はどのくらいですか。【〇は1つ】

中学生以下の子どもがいる世帯が1日に家事・育児に費やす時間について、全体として、「4時間以上」の割合が34.6%と最も高くなっています。

性別にみると、女性は「4時間以上」が55.3%と最も高く、費やす時間が長いほど割合が高まっていくのに対して、男性の場合は、「1時間～2時間未満」(41.7%)がピークとなっています。

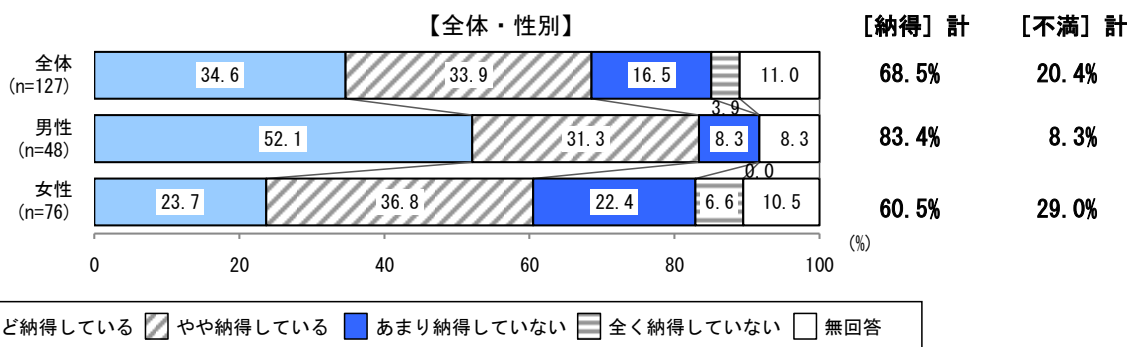


問 13 は中学生以下の子どもがいる方のみお答えください。

問 13 あなたは、問 11 の役割分担に納得していますか。【〇は1つ】

役割分担への納得度について、全体としては「ほとんど納得している」と「やや納得している」を合計した「納得」の割合が68.5%と過半数を占めています。

性別でみると、男性では「納得」が83.4%と大半を占める一方、女性は60.5%と男女差が大きくなっています。



問 13 で、「3.あまり納得していない」又は「4.全く納得していない」と答えた方のみお答えください。

問 13-1 あなたが納得する役割分担が困難な理由を教えてください。【あてはまるものすべてに○】

※回答者数が少数であることにご留意ください

納得する役割分担が困難な理由について、女性の回答に着目すると、「出勤・帰宅時間の関係で対応できないため」(36.4%)と「パートナー・配偶者からの理解が得られないため」(31.8%)の割合が高くなっています。

【全体・性別】

(上段:実数、下段:MA%)

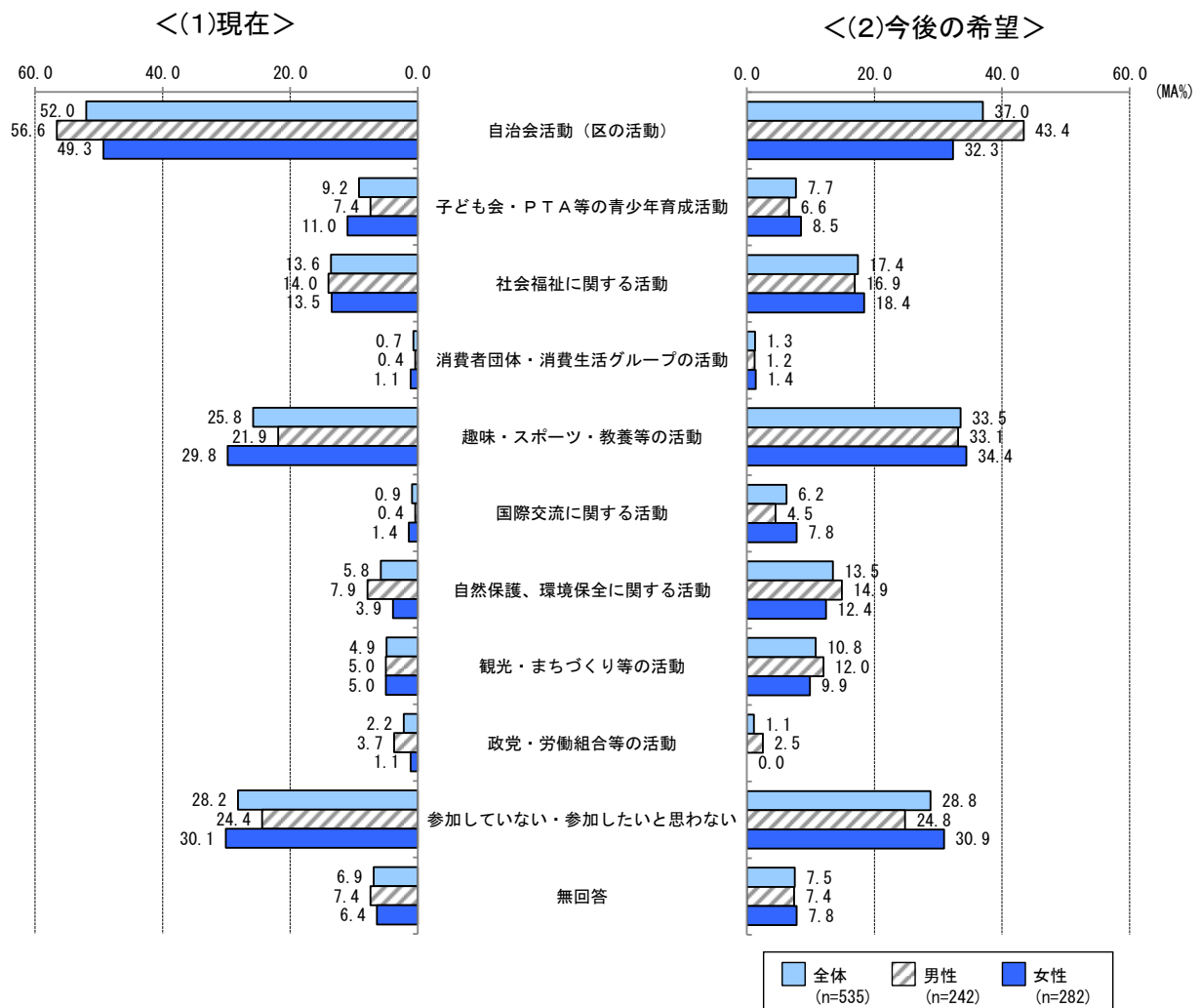
	全 体	で出 勤・ 帰 宅 時 間 の 関 係	め長 時 間 で 働 き な い 残 業 の た	の技 術 的 に 役 割 を こ な す	た ら バ ー ト 解 ナ ー が 得 ら れ な い か	そ の 他	特 に 理 由 は な い
全 体	26 100.0	10 38.5	7 26.9	4 15.4	7 26.9	1 3.8	5 19.2
男性	4 100.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
女性	22 100.0	8 36.4	5 22.7	3 13.6	7 31.8	1 4.5	5 22.7

4 地域生活について

問 14 ここ1年ほどの間であなたが参加した地域活動にはどのようなものがありますか。また、今後参加したい活動はありますか。【(1)と(2)それぞれあてはまるものすべてに○】

地域活動について、全体・性別において、＜(1)現在＞では「自治会活動(区の活動)」への参加の割合が半数を占め最も高く、次いで「参加していない」、「趣味・スポーツ・教養等の活動」が高くなっています。＜(2)今後の希望＞においては、＜(1)現在＞と比較すると、「自治会活動(区の活動)」の割合が減少し、「趣味・スポーツ・教養等の活動」の割合が増加しています。

【全体・性別】



性年代でみると、若い世代で<(1)現在><(2)今後の希望>ともに「参加していない・参加したいと思わない」の割合が高くなっています。

【性年代別】

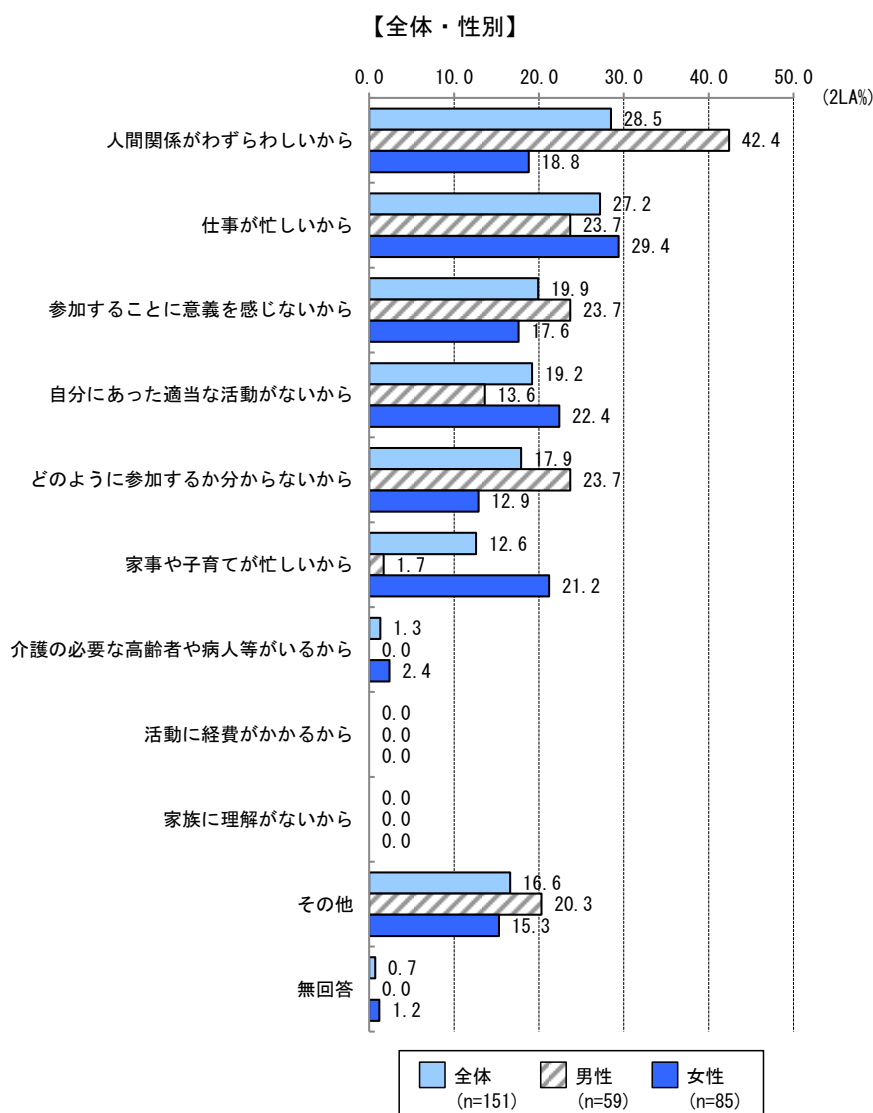
		(MA%)											
		回答者数	自治会活動 (区の活動)	子ども会・PTA等の青少年育成活動	社会福祉に関する活動	消費者団体・消費生活グループの活動	趣味・スポーツ・教養等の活動	国際交流に関する活動	自然保護、環境保全に関する活動	観光・まちづくり等の活動	政党・労働組合等の活動	いずれにも参加したいと思わない	無回答
(1)現在													
男性	18～20歳代	42	16.7	4.8	2.4	0.0	19.0	0.0	4.8	2.4	0.0	50.0	4.8
	30～40歳代	80	57.5	18.8	7.5	1.3	20.0	0.0	2.5	8.8	5.0	30.0	3.8
	50～60歳代	70	68.6	1.4	20.0	0.0	20.0	0.0	11.4	2.9	5.7	14.3	11.4
	70歳以上	50	72.0	0.0	26.0	0.0	30.0	2.0	14.0	4.0	2.0	8.0	10.0
女性	18～20歳代	53	3.8	3.8	5.7	1.9	15.1	1.9	1.9	1.9	0.0	75.5	1.9
	30～40歳代	84	50.0	29.8	10.7	1.2	27.4	0.0	0.0	3.6	1.2	28.6	4.8
	50～60歳代	90	68.9	3.3	10.0	0.0	31.1	2.2	5.6	6.7	1.1	17.8	6.7
	70歳以上	52	61.5	1.9	30.8	1.9	44.2	1.9	7.7	7.7	1.9	7.7	13.5
(2)今後の希望													
男性	18～20歳代	42	14.3	4.8	4.8	2.4	31.0	2.4	9.5	4.8	2.4	47.6	4.8
	30～40歳代	80	46.3	16.3	10.0	2.5	30.0	3.8	13.8	21.3	3.8	27.5	2.5
	50～60歳代	70	54.3	1.4	28.6	0.0	37.1	4.3	18.6	10.0	1.4	17.1	8.6
	70歳以上	50	48.0	0.0	22.0	0.0	34.0	8.0	16.0	6.0	2.0	12.0	16.0
女性	18～20歳代	53	5.7	5.7	7.5	1.9	24.5	13.2	9.4	9.4	0.0	54.7	0.0
	30～40歳代	84	20.2	22.6	11.9	1.2	27.4	11.9	13.1	8.3	0.0	35.7	6.0
	50～60歳代	90	50.0	1.1	24.4	1.1	47.8	4.4	11.1	10.0	0.0	22.2	6.7
	70歳以上	52	48.1	1.9	26.9	1.9	30.8	0.0	17.3	13.5	0.0	15.4	21.2

問 14(1)現在で、「10.いずれにも参加していない・参加したいと思わない」と答えた方のみお答えください。

問 14-1 どれにも参加しなかったのはなぜですか。【〇は2つまで】

地域活動に参加しなかった理由について、全体では「人間関係がわずらわしいから」、「仕事が忙しいから」の割合が約3割と高くなっていますが、性別により回答に差がみられます。

男性は「人間関係がわずらわしいから」が42.4%と約半数にのぼる一方、「どのように参加するか分からないから」も23.7%と女性に比べ高くなっています。女性は「仕事が忙しいから」が29.4%と最も高く、次いで「自分にあった適当な活動がないから」、「家事や子育てが忙しいから」がともに約2割となっています。



※回答者数が少数であることにご留意ください

性年代別でみると、上の年代ほど「人間関係がわずらわしいから」の割合が増加傾向にあります。

【性年代別】

(2LA%)

	回答者数	家事や子育てが忙しいから	介護の必要が高齢者や病人等がいるから	仕事忙しいから	活動に経費がかかるから	家族に理解がないから	自分にあつた適当な活動がないから	どのように参加するか分からないから	参加することに意義を感じないから	人間関係がわずらわしいから	その他	無回答	
男性	18～20歳代	21	0.0	0.0	9.5	0.0	0.0	23.8	28.6	38.1	38.1	28.6	0.0
	30～40歳代	24	4.2	0.0	37.5	0.0	0.0	4.2	25.0	20.8	45.8	4.2	0.0
	50～60歳代	10	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	40.0	40.0	0.0
	70歳以上	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0
女性	18～20歳代	40	15.0	0.0	32.5	0.0	0.0	30.0	12.5	22.5	7.5	12.5	0.0
	30～40歳代	24	45.8	0.0	33.3	0.0	0.0	8.3	12.5	12.5	20.8	20.8	4.2
	50～60歳代	16	6.3	12.5	25.0	0.0	0.0	18.8	12.5	18.8	31.3	6.3	0.0
	70歳以上	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	50.0	50.0	0.0

5 仕事について

問 15 あなたは職場において、仕事の内容や待遇面で、性別によって違いがあると思いますか。【(ア)～(ケ)それぞれに1つずつ〇】

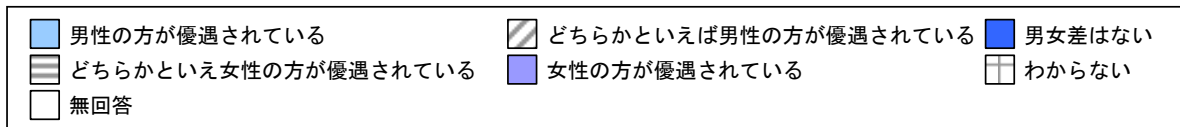
職場における仕事内容や待遇面での男女差については、全体では「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した [男性優遇] の割合が特に高いのが、<(オ)管理職への登用>47.9%、<(イ)昇進・昇格>47.6%、<(ア)賃金>43.4%となっています。

一方、[女性優遇] の割合が [男性優遇] を上回るのは、<(ク)育児や介護を理由とした休暇の取得>40.2%、<(カ)深夜勤務や休日出勤>19.3%となっています。

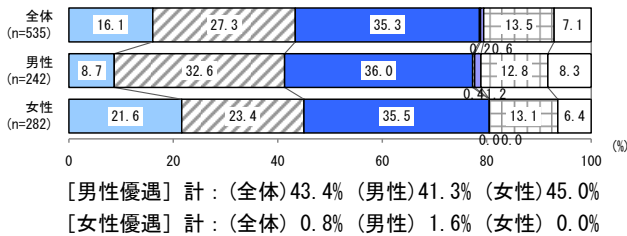
また、「男女差はない」の割合が高い項目は、<(キ)教育・研修の機会>57.2%、<(ウ)能力の正当な評価>40.9%、<(ケ)働き続けられる環境>39.6%となっています。

性別による回答傾向の大きな差はみられませんが、すべての項目における [男性優遇] の割合は、男性に比べ女性の方が高くなっています。

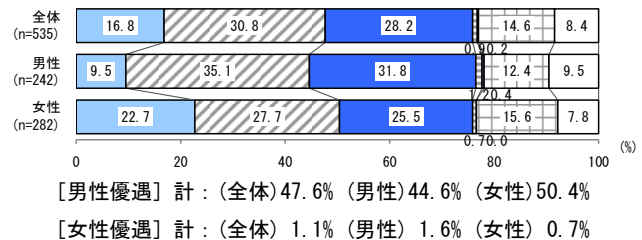
【全体・性別】



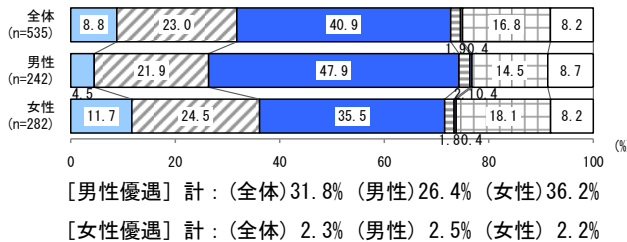
<(ア)賃金>



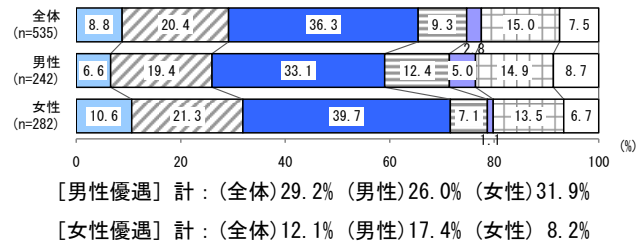
<(イ)昇進・昇格>



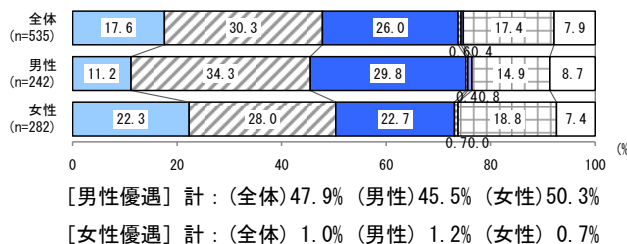
<(ウ)能力の正当な評価>



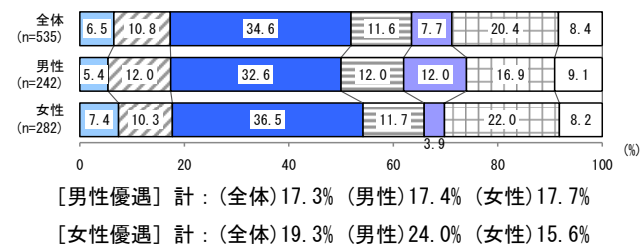
<(エ)仕事内容>



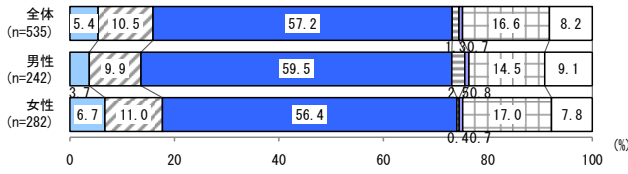
<(オ)管理職への登用>



<(カ)深夜勤務や休日出勤>

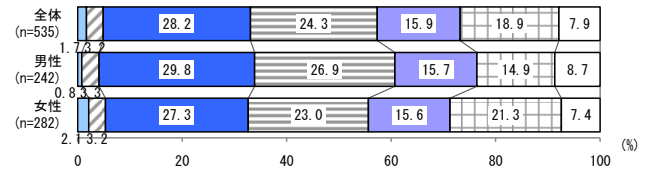


<(キ)教育・研修の機会>



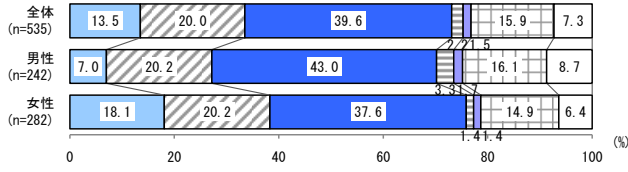
[男性優遇] 計：(全体) 15.9% (男性) 13.6% (女性) 17.7%
 [女性優遇] 計：(全体) 2.0% (男性) 3.3% (女性) 1.1%

<(ク)育児や介護を理由とした休暇の取得>



[男性優遇] 計：(全体) 4.9% (男性) 4.1% (女性) 5.3%
 [女性優遇] 計：(全体) 40.2% (男性) 42.6% (女性) 38.6%

<(ケ)働き続けられる環境>



[男性優遇] 計：(全体) 33.5% (男性) 27.2% (女性) 38.3%
 [女性優遇] 計：(全体) 3.7% (男性) 5.0% (女性) 2.8%

性年代別にみると、多くの項目において、年代が上がるにつれ「男性優遇」の割合が高くなる傾向がみられますが、<(オ)管理職への登用>については、年代による「男性優遇」の割合に差はほとんどみられず、どの年代においても「男性優遇」が高い割合を保っています。

<(ク)育児や介護を理由とした休暇の取得>については、子育て世代にあたる30~40歳代の回答に着目すると、30~40歳代の男性は「女性優遇」の割合が45.1%と男性全体と同水準の割合ですが、「男女差はない」の割合も38.8%と高く、他世代男性と比較して高い割合となっています。30~40歳代の女性では「女性優遇」の割合が48.8%と約半数を占め、他世代女性よりも10ポイント以上高くなっています。

【性年代別】

		回答者数	男性優遇	女性優遇	男女差はない	わからない	無回答	「男性優遇」合計	「女性優遇」合計
(ア)賃金									
男性	18~20歳代	42	4.8	28.6	45.2	0.0	0.0	16.7	4.8
	30~40歳代	80	5.0	30.0	47.5	0.0	3.8	12.5	1.3
	50~60歳代	70	10.0	32.9	37.1	1.4	0.0	15.7	2.9
	70歳以上	50	16.0	40.0	8.0	0.0	0.0	6.0	30.0
女性	18~20歳代	53	20.8	15.1	43.4	0.0	0.0	13.2	7.5
	30~40歳代	84	26.2	21.4	44.0	0.0	0.0	7.1	1.2
	50~60歳代	90	15.6	23.3	37.8	0.0	0.0	17.8	5.6
	70歳以上	52	23.1	36.5	9.6	0.0	0.0	15.4	15.4
(イ)昇進・昇格									
男性	18~20歳代	42	7.1	28.6	40.5	0.0	0.0	16.7	7.1
	30~40歳代	80	2.5	37.5	40.0	3.8	1.3	13.8	1.3
	50~60歳代	70	14.3	38.6	31.4	0.0	0.0	12.9	2.9
	70歳以上	50	16.0	32.0	12.0	0.0	0.0	6.0	34.0
女性	18~20歳代	53	17.0	22.6	32.1	1.9	0.0	18.9	7.5
	30~40歳代	84	23.8	31.0	29.8	1.2	0.0	13.1	1.2
	50~60歳代	90	22.2	24.4	25.6	0.0	0.0	18.9	8.9
	70歳以上	52	25.0	34.6	11.5	0.0	0.0	11.5	17.3

(%)

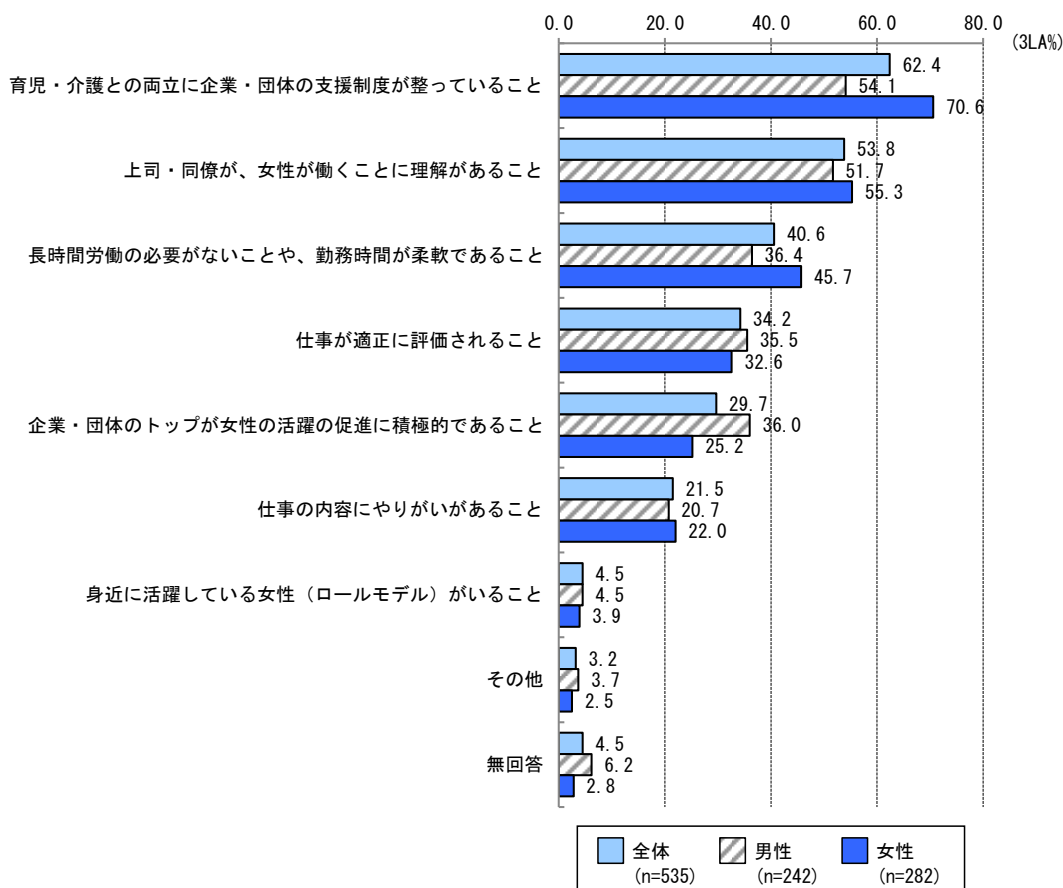
	回答者数	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかといえど男性の方が優遇さ	男女差はない	どちらかといえど女性の方が優遇さ	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	「男性優遇」合計	「女性優遇」合計
(ウ) 能力の正当な評価											
男性	18～20歳代	42	4.8	14.3	57.1	2.4	0.0	16.7	4.8	19.1	2.4
	30～40歳代	80	1.3	21.3	58.8	2.5	1.3	13.8	1.3	22.6	3.8
	50～60歳代	70	7.1	18.6	50.0	2.9	0.0	18.6	2.9	25.7	2.9
	70歳以上	50	6.0	34.0	20.0	0.0	0.0	8.0	32.0	40.0	0.0
女性	18～20歳代	53	9.4	20.8	37.7	1.9	0.0	20.8	9.4	30.2	1.9
	30～40歳代	84	16.7	20.2	41.7	3.6	1.2	15.5	1.2	36.9	4.8
	50～60歳代	90	7.8	24.4	37.8	1.1	0.0	20.0	8.9	32.2	1.1
	70歳以上	52	11.5	34.6	19.2	0.0	0.0	17.3	17.3	46.1	0.0
(エ) 仕事内容											
男性	18～20歳代	42	7.1	16.7	38.1	11.9	4.8	16.7	4.8	23.8	16.7
	30～40歳代	80	3.8	17.5	38.8	13.8	10.0	15.0	1.3	21.3	23.8
	50～60歳代	70	8.6	17.1	34.3	15.7	2.9	18.6	2.9	25.7	18.6
	70歳以上	50	8.0	28.0	18.0	6.0	0.0	8.0	32.0	36.0	6.0
女性	18～20歳代	53	11.3	13.2	41.5	5.7	3.8	17.0	7.5	24.5	9.5
	30～40歳代	84	11.9	19.0	45.2	14.3	0.0	8.3	1.2	30.9	14.3
	50～60歳代	90	7.8	23.3	43.3	2.2	1.1	16.7	5.6	31.1	3.3
	70歳以上	52	11.5	30.8	21.2	5.8	0.0	13.5	17.3	42.3	5.8
(オ) 管理職への登用											
男性	18～20歳代	42	9.5	38.1	31.0	2.4	0.0	14.3	4.8	47.6	2.4
	30～40歳代	80	8.8	31.3	38.8	0.0	1.3	18.8	1.3	40.1	1.3
	50～60歳代	70	14.3	32.9	31.4	0.0	0.0	18.6	2.9	47.2	0.0
	70歳以上	50	12.0	38.0	12.0	0.0	2.0	4.0	32.0	50.0	2.0
女性	18～20歳代	53	24.5	17.0	24.5	0.0	0.0	26.4	7.5	41.5	0.0
	30～40歳代	84	26.2	25.0	31.0	1.2	0.0	15.5	1.2	51.2	1.2
	50～60歳代	90	17.8	32.2	20.0	1.1	0.0	21.1	7.8	50.0	1.1
	70歳以上	52	21.2	34.6	13.5	0.0	0.0	13.5	17.3	55.8	0.0
(カ) 深夜勤務や休日出勤											
男性	18～20歳代	42	0.0	14.3	40.5	14.3	7.1	19.0	4.8	14.3	21.4
	30～40歳代	80	3.8	8.8	37.5	11.3	22.5	13.8	2.5	12.6	33.8
	50～60歳代	70	5.7	11.4	35.7	14.3	10.0	20.0	2.9	17.1	24.3
	70歳以上	50	12.0	16.0	14.0	8.0	2.0	16.0	32.0	28.0	10.0
女性	18～20歳代	53	9.4	9.4	43.4	3.8	3.8	20.8	9.4	18.8	7.6
	30～40歳代	84	7.1	4.8	46.4	13.1	4.8	22.6	1.2	11.9	17.9
	50～60歳代	90	6.7	10.0	31.1	15.6	3.3	24.4	8.9	16.7	18.9
	70歳以上	52	7.7	21.2	19.2	11.5	3.8	19.2	17.3	28.9	15.3
(キ) 教育・研修の機会											
男性	18～20歳代	42	0.0	11.9	69.0	0.0	0.0	14.3	4.8	11.9	0.0
	30～40歳代	80	2.5	7.5	70.0	3.8	2.5	12.5	1.3	10.0	6.3
	50～60歳代	70	5.7	7.1	62.9	1.4	0.0	20.0	2.9	12.8	1.4
	70歳以上	50	6.0	16.0	30.0	4.0	0.0	10.0	34.0	22.0	4.0
女性	18～20歳代	53	7.5	3.8	67.9	0.0	0.0	13.2	7.5	11.3	0.0
	30～40歳代	84	6.0	13.1	64.3	0.0	1.2	14.3	1.2	19.1	1.2
	50～60歳代	90	5.6	12.2	51.1	0.0	1.1	22.2	7.8	17.8	1.1
	70歳以上	52	9.6	13.5	42.3	1.9	0.0	15.4	17.3	23.1	1.9
(ク) 育児や介護を理由とした休暇の取得											
男性	18～20歳代	42	0.0	4.8	28.6	19.0	26.2	16.7	4.8	4.8	45.2
	30～40歳代	80	0.0	0.0	38.8	26.3	18.8	15.0	1.3	0.0	45.1
	50～60歳代	70	1.4	2.9	28.6	35.7	12.9	15.7	2.9	4.3	48.6
	70歳以上	50	2.0	8.0	18.0	22.0	6.0	12.0	32.0	10.0	28.0
女性	18～20歳代	53	7.5	0.0	26.4	15.1	18.9	24.5	7.5	7.5	34.0
	30～40歳代	84	0.0	7.1	29.8	26.2	22.6	13.1	1.2	7.1	48.8
	50～60歳代	90	1.1	1.1	31.1	21.1	14.4	24.4	6.7	2.2	35.5
	70歳以上	52	1.9	3.8	19.2	28.8	3.8	25.0	17.3	5.7	32.6
(ケ) 働き続けられる環境											
男性	18～20歳代	42	9.5	21.4	40.5	2.4	2.4	19.0	4.8	30.9	4.8
	30～40歳代	80	3.8	20.0	53.8	1.3	3.8	15.0	2.5	23.8	5.1
	50～60歳代	70	10.0	21.4	42.9	5.7	0.0	18.6	1.4	31.4	5.7
	70歳以上	50	6.0	18.0	28.0	4.0	0.0	12.0	32.0	24.0	4.0
女性	18～20歳代	53	22.6	15.1	30.2	0.0	1.9	20.8	9.4	37.7	1.9
	30～40歳代	84	20.2	26.2	41.7	2.4	1.2	7.1	1.2	46.4	3.6
	50～60歳代	90	12.2	14.4	48.9	2.2	2.2	15.6	4.4	26.6	4.4
	70歳以上	52	19.2	25.0	19.2	0.0	0.0	21.2	15.4	44.2	0.0

問 16 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために、必要なものは何だと思いますか。【〇は3つまで】

女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要なものとして、全体では「育児・介護との両立に企業・団体の支援制度が整っていること」の割合が 62.4%で最も高く、次いで「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」53.8%、「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」40.6%となっています。

性別にみると、回答傾向は概ね同様ではあるものの、回答割合に男女差がみられ、特に女性では「育児・介護との両立に企業・団体の支援制度が整っていること」(70.6%)、「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」(45.7%)において、それぞれ男性より 16.5 ポイント、9.3 ポイント上回っています。一方男性では「企業・団体のトップが女性の活躍の促進に積極的であること」が 36.0%で、女性を 10.8 ポイント上回っています。

【全体・性別】



性年代別にみると、男女とも子育て世代を含む若い世代において、「育児・介護との両立に企業・団体の支援制度が整っていること」、「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」といった両立支援に関連する項目の割合が高い傾向にあり、管理職世代を含む上の年齢層において「仕事が適正に評価されること」の割合が高い傾向にあります。

【性年代別】

		回答者数	極端的な活躍の促進に積極的	企業・団体のサポートが	働くことに理解がある	上司・僚が女性である	企業が育児・介護の両立に	柔軟であること	長時間労働の必要がない	性（性別）に活モデルが	身近に活躍している	仕事の内容にやりがい	仕事の内容にやりがい	その他	無回答
男性	18～20歳代	42	42.9	47.6	47.6	33.3	2.4	38.1	19.0	7.1	4.8				
	30～40歳代	80	30.0	55.0	63.8	48.8	11.3	16.3	21.3	6.3	3.8				
	50～60歳代	70	38.6	51.4	61.4	31.4	1.4	45.7	18.6	0.0	4.3				
	70歳以上	50	36.0	50.0	34.0	26.0	0.0	50.0	24.0	2.0	14.0				
女性	18～20歳代	53	17.0	56.6	79.2	43.4	13.2	34.0	20.8	0.0	3.8				
	30～40歳代	84	28.6	60.7	72.6	63.1	2.4	22.6	17.9	2.4	1.2				
	50～60歳代	90	30.0	51.1	71.1	37.8	1.1	38.9	22.2	3.3	1.1				
	70歳以上	52	19.2	50.0	57.7	36.5	1.9	38.5	28.8	3.8	7.7				

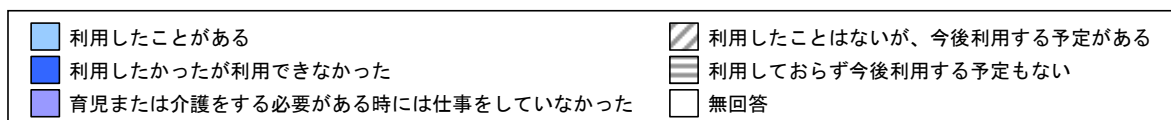
中学生以下の子どもがいる方または介護が必要な家族がいる方にお聞きします。

問 17 あなたは、育児休業・介護休業制度を利用されましたか。また、今後利用する予定がありますか。
【(1)と(2)それぞれに1つずつ】

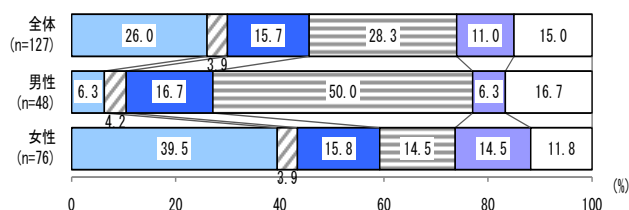
<(1) 育児休業制度>の利用経験及び今後の利用予定については、男女で大きな傾向の差がみられます。「利用したことがある」割合は女性が約4割を占める一方、男性では6.3%となっており、男性では「利用しておらず今後も利用する予定がない」が50.0%と半数を占めています。

<(2) 介護休業制度>の利用経験及び今後の利用予定については、男女とも「利用したことがある」が2～3%と同程度の低い割合となっていますが、「利用したことはないが、今後利用する予定がある」は、男性で3割を超え、女性よりも高くなっています。

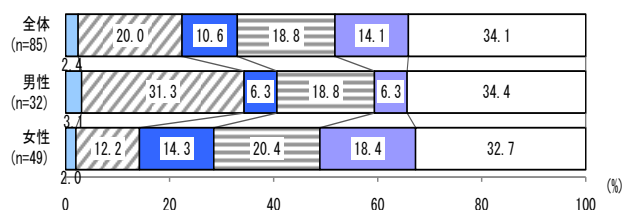
【全体・性別】



<(1) 育児休業制度>



<(2) 介護休業制度>



問 17 で、「3. 利用したかったが利用できなかった」を1つでも答えた方のみお答えください。

問 17-1 育児休業や介護休業制度を利用できなかった理由を教えてください。【(1)と(2)それぞれあてはまるものすべてに○】

※回答者数が少数であることにご留意ください

制度を利用できなかった理由については、<(1) 育児休業制度><(2) 介護休業制度>ともに、「職場が育児・介護休業制度を利用する雰囲気ではないから」、「仕事に支障がでるから」の回答が多くなっています。

【全体・性別】

<(1) 育児休業制度>

(上段:実数、下段:MA%)

	全 体	は な い 方 が 利 用 し な い か ら	夫 婦 の う ち 、 収 入 の 少 な い 方 が 利 用 し な い か ら	う 育 児 ・ 介 護 は 、 妻 が 行 う 方 が 適 し て い る か ら	う 育 児 ・ 介 護 は 、 夫 が 行 う 方 が 適 し て い る か ら	さ わ り が あ る か ら 昇 進 に さ し 難 い か ら	利 用 す る か ら 昇 進 に さ し 難 い か ら	制 度 を 利 用 す る か ら 昇 進 に さ し 難 い か ら	職 場 が 育 児 ・ 介 護 休 業 制 度 を 利 用 す る か ら 昇 進 に さ し 難 い か ら	仕 事 に 支 障 が で る か ら	企 業 ・ 団 体 に 育 児 ・ 介 護 休 業 制 度 が な い か ら	育 児 ・ 介 護 を し た く な い か ら	も で き な い か ら 休 み を と つ て は な ら ず	育 児 ・ 介 護 の 仕 方 が わ か ら ず	祖 父 母 が み て く れ る か	そ の 他	無 回 答	
全 体	20 100.0	1 5.0	2 10.0	0 0.0	4 20.0	10 50.0	8 40.0	6 30.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	4 20.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0
男性	8 100.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	2 25.0	6 75.0	5 62.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5
女性	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	4 33.3	3 25.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

<(2) 介護休業制度>

(上段:実数、下段:MA%)

	全 体	は な い 方 が 利 用 し な い か ら	夫 婦 の う ち 、 収 入 の 少 な い 方 が 利 用 し な い か ら	う 育 児 ・ 介 護 は 、 妻 が 行 う 方 が 適 し て い る か ら	う 育 児 ・ 介 護 は 、 夫 が 行 う 方 が 適 し て い る か ら	さ わ り が あ る か ら 昇 進 に さ し 難 い か ら	利 用 す る か ら 昇 進 に さ し 難 い か ら	制 度 を 利 用 す る か ら 昇 進 に さ し 難 い か ら	職 場 が 育 児 ・ 介 護 休 業 制 度 を 利 用 す る か ら 昇 進 に さ し 難 い か ら	仕 事 に 支 障 が で る か ら	企 業 ・ 団 体 に 育 児 ・ 介 護 休 業 制 度 が な い か ら	育 児 ・ 介 護 を し た く な い か ら	も で き な い か ら 休 み を と つ て は な ら ず	育 児 ・ 介 護 の 仕 方 が わ か ら ず	祖 父 母 が み て く れ る か	そ の 他	無 回 答	
全 体	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	7 77.8	4 44.4	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0
男性	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
女性	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 71.4	3 42.9	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0

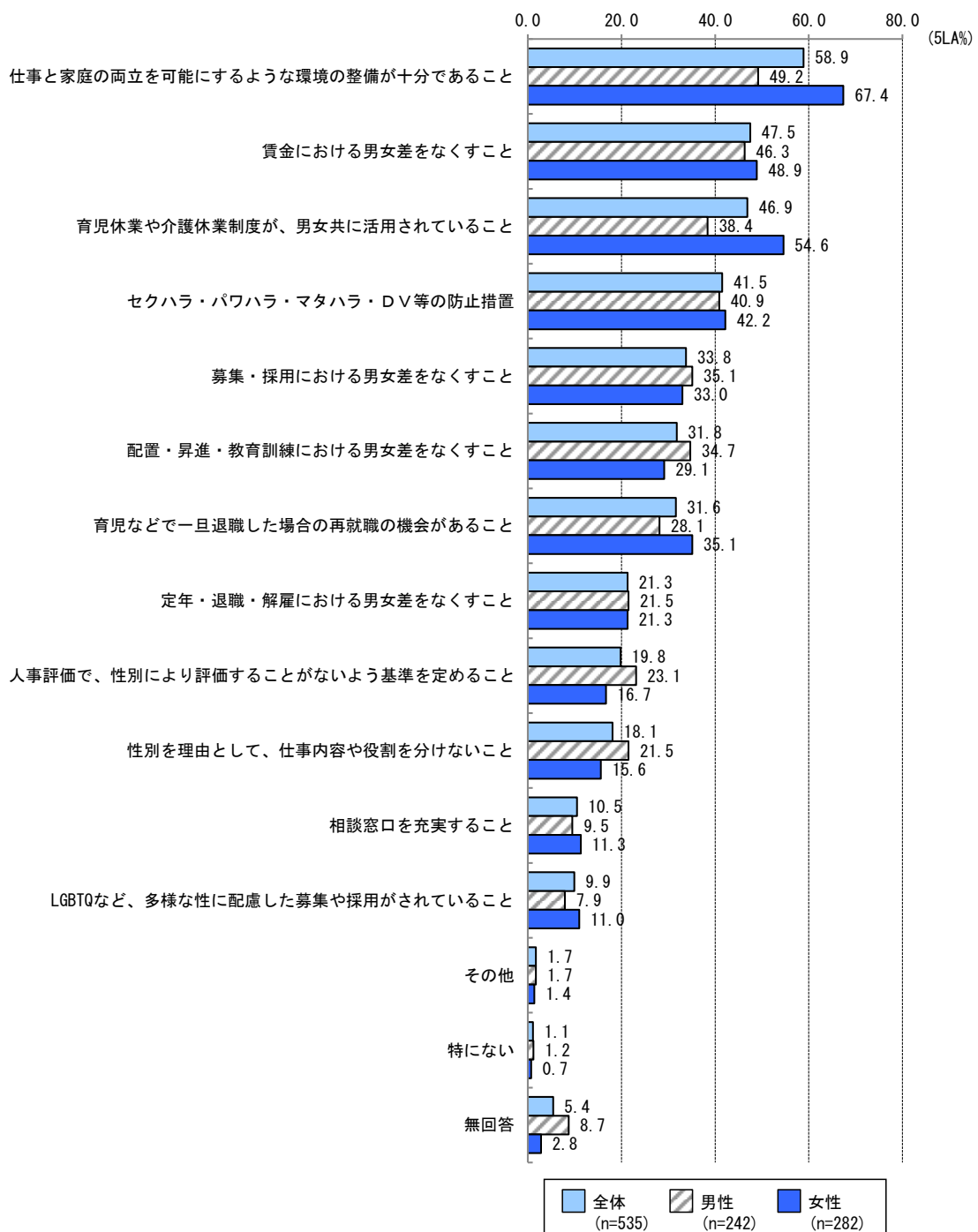
問 18 男女が共に働きやすい社会環境をつくるために、企業・団体が取り組むべきと考えることは何ですか。

【〇は5つまで】

男女が共に働きやすい社会環境づくりのために企業・団体が取り組むべきと考えることについては、全体では「仕事と家庭の両立を可能にするような環境の整備が十分であること」が 58.9%で最も高く、次いで「賃金における男女差をなくすこと」47.5%、「育児休業や介護休業制度が、男女共に活用されていること」46.9%となっています。

性別で見ると、女性において「仕事と家庭の両立を可能にするような環境の整備が十分であること」が 67.4%、「育児休業や介護休業制度が、男女共に活用されていること」が 54.6%と、両立支援に関する項目が男性よりも非常に高くなっています。

【全体・性別】



性年代別にみると、男女ともに 30～40 歳代において「仕事と家庭の両立を可能にするような環境の整備が十分であること」の割合が他世代よりも高くなっており、特に 30～40 歳代女性では 75.0% にのびります。また、男性の 50 歳代以上においては「賃金における男女差をなくすこと」の割合が高い傾向にあります。

【性年代別】

(5LA%)

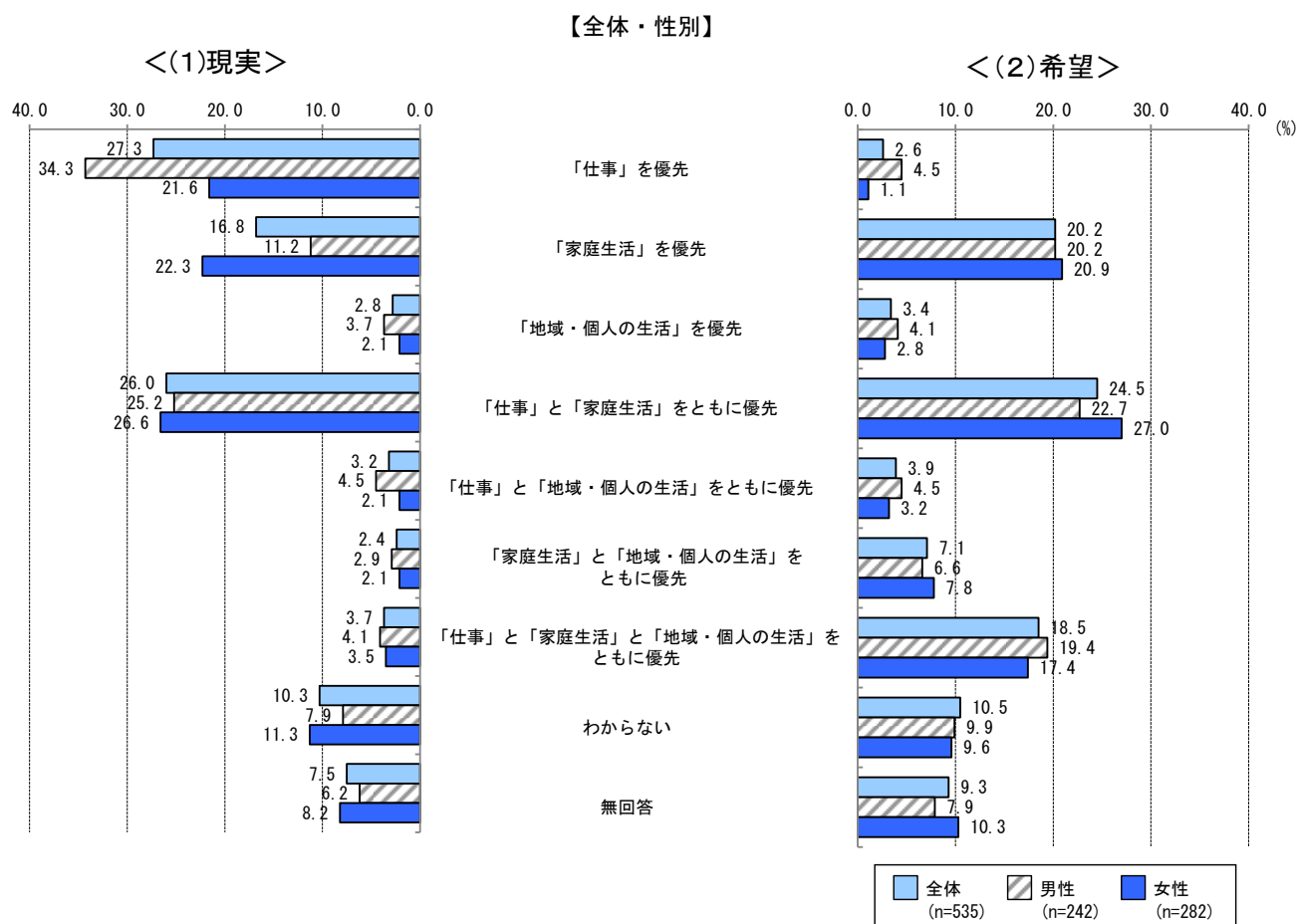
	回答者数	募集・採用における男女差をなくすこと	配置・昇進・教育訓練における男女差をなくすこと	賃金における男女差をなくすこと	定年・退職・解雇における男女差をなくすこと	DV等の防止措置	セクハラ・パワハラ・マタハラ	LGBTQなど、多様な性に配慮した募集や採用がされていること	育児休業や介護休業制度が、男女共に活用されていること	仕事と家庭の両立を可能にするような環境の整備が十分であること	育児などで一旦退職した場合の再就職の機会があること	人事評価で、性別により評価することがないよう基準を定めること	性別を理由として、仕事内容や役割を分けられないこと	相談窓口を充実すること	その他	特になし	無回答
男性	18～20歳代	42	42.9	35.7	42.9	14.3	31.0	4.8	45.2	50.0	28.6	19.0	16.7	4.8	2.4	0.0	16.7
	30～40歳代	80	27.5	27.5	37.5	23.8	46.3	13.8	43.8	55.0	35.0	18.8	25.0	7.5	1.3	2.5	7.5
	50～60歳代	70	38.6	34.3	60.0	17.1	44.3	5.7	32.9	45.7	22.9	28.6	25.7	14.3	2.9	1.4	4.3
	70歳以上	50	36.0	46.0	44.0	30.0	36.0	4.0	32.0	44.0	24.0	26.0	14.0	10.0	0.0	0.0	10.0
女性	18～20歳代	53	34.0	26.4	39.6	22.6	37.7	26.4	52.8	64.2	35.8	11.3	20.8	7.5	0.0	1.9	3.8
	30～40歳代	84	27.4	31.0	52.4	17.9	45.2	11.9	58.3	75.0	38.1	13.1	13.1	14.3	1.2	0.0	1.2
	50～60歳代	90	34.4	27.8	53.3	25.6	46.7	6.7	53.3	63.3	34.4	24.4	13.3	7.8	2.2	1.1	2.2
	70歳以上	52	36.5	30.8	44.2	19.2	36.5	1.9	51.9	65.4	30.8	15.4	17.3	17.3	1.9	0.0	5.8

6 ワーク・ライフ・バランスについて

問 19 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。「(1)現実」と「(2)希望」の両方についてお答えください。【〇はそれぞれ1つ】

生活の中での優先度について、＜（１）現実＞においては男女の差が大きく、男性では『「仕事」を優先』が34.3%で最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が25.2%となっています。一方、女性では『「仕事」を優先』21.6%、『「家庭生活」を優先』22.3%、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』26.6%の3項目が2割台となっており、回答が分散しています。

＜（２）希望＞においては、回答傾向の男女差は小さく、男女ともに、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高く、次いで『「家庭生活」を優先』、『「仕事」と「家庭生活」と『「地域・個人の生活」をともに優先』の順になっています。



なお、＜（１）現実＞と＜（２）希望＞の差に着目すると、特に『「仕事」を優先』において、男女ともに＜（１）現実＞の優先度が＜（２）希望＞を大きく上回っています。逆に、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』では、＜（１）現実＞が＜（２）希望＞を大きく下回っています。

また、『「家庭生活」を優先』では、男性で＜（１）現実＞の優先度が＜（２）希望＞より大きく下回る結果となっています。

【＜現実＞と＜希望＞の優先度の差（全体・性別）】

	全体(n=535)			男性(n=242)			女性(n=282)		
	現実 (%)	希望 (%)	差 (ポイント)	現実 (%)	希望 (%)	差 (ポイント)	現実 (%)	希望 (%)	差 (ポイント)
「仕事」を優先	27.3	2.6	24.7	34.3	4.5	29.8	21.6	1.1	20.5
「家庭生活」を優先	16.8	20.2	3.4	11.2	20.2	9.0	22.3	20.9	1.4
「地域・個人の生活」を優先	2.8	3.4	0.6	3.7	4.1	0.4	2.1	2.8	0.7
「仕事」と「家庭生活」を ともに優先	26.0	24.5	1.5	25.2	22.7	2.5	26.6	27.0	0.4
「仕事」と「地域・個人の生活」を ともに優先	3.2	3.9	0.7	4.5	4.5	0.0	2.1	3.2	1.1
「家庭生活」と「地域・個人の生活」を ともに優先	2.4	7.1	4.7	2.9	6.6	3.7	2.1	7.8	5.7
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人 の生活」をともに優先	3.7	18.5	14.8	4.1	19.4	15.3	3.5	17.4	13.9
「現実」と「希望」の差の平均	—	—	7.2	—	—	8.7	—	—	6.2

性年代別にみると、『「仕事」を優先』において、＜（１）現実＞の割合が最も高いのは50～60歳代男性で40.0%にのぼり、＜現実と希望の差＞は34.3ポイントと最も大きくなっています。

子育て世代を含む30～40歳代では、＜（１）現実＞＜（２）希望＞ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が高く、＜（１）現実＞では特に30～40歳代男性が38.8%と最も高くなっています。

70歳以上の男性においては、＜（１）現実＞＜（２）希望＞ともに『「家庭生活」を優先』の割合が高い一方、70歳以上の女性は、＜（１）現実＞は『「仕事」を優先』が最も高く、＜（２）希望＞では『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』が最も高くなっています。

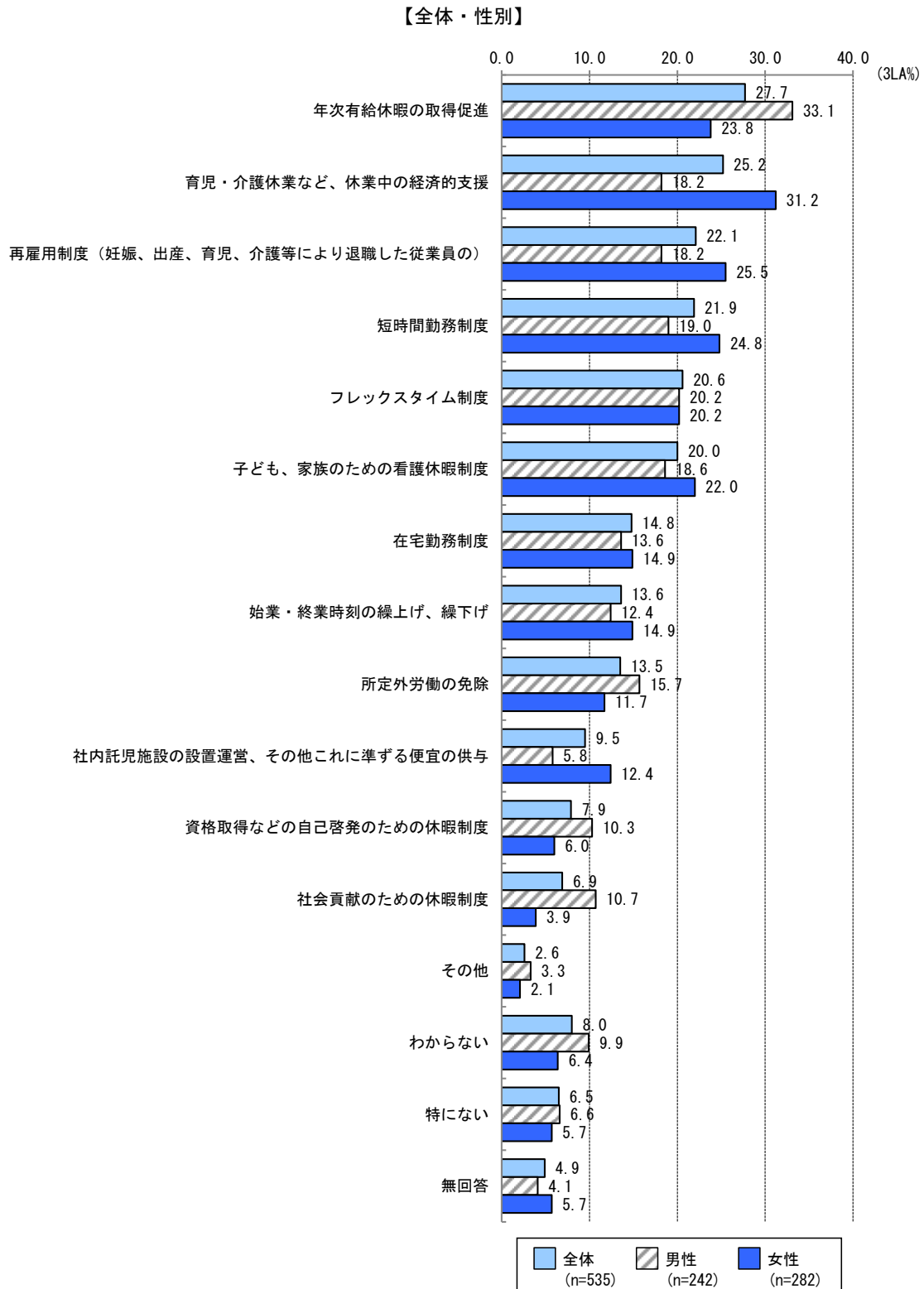
女性においては、年齢が上がるとともに、＜（２）希望＞において『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』の割合が増加する傾向がみられます。

【性年代別】

		回答者数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	を「仕事」と「家庭生活」をともに優先	の「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	先個人「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	無回答
(%)											
(1)現実											
男性	18～20歳代	42	31.0	7.1	7.1	26.2	7.1	0.0	4.8	16.7	0.0
	30～40歳代	80	37.5	7.5	1.3	38.8	2.5	1.3	3.8	7.5	0.0
	50～60歳代	70	40.0	7.1	4.3	18.6	5.7	2.9	7.1	2.9	11.4
	70歳以上	50	24.0	26.0	4.0	12.0	4.0	8.0	0.0	8.0	14.0
女性	18～20歳代	53	28.3	9.4	1.9	28.3	3.8	1.9	0.0	22.6	3.8
	30～40歳代	84	16.7	32.1	0.0	35.7	0.0	0.0	6.0	7.1	2.4
	50～60歳代	90	21.1	26.7	3.3	23.3	3.3	4.4	1.1	7.8	8.9
	70歳以上	52	23.1	13.5	3.8	15.4	1.9	0.0	7.7	13.5	21.2
(2)希望											
男性	18～20歳代	42	2.4	28.6	0.0	14.3	2.4	7.1	23.8	14.3	7.1
	30～40歳代	80	6.3	23.8	6.3	30.0	0.0	6.3	20.0	7.5	0.0
	50～60歳代	70	5.7	10.0	4.3	25.7	10.0	5.7	20.0	10.0	8.6
	70歳以上	50	2.0	22.0	4.0	14.0	6.0	8.0	14.0	10.0	20.0
女性	18～20歳代	53	1.9	20.8	3.8	30.2	3.8	7.5	11.3	18.9	1.9
	30～40歳代	84	0.0	33.3	0.0	32.1	1.2	6.0	14.3	7.1	6.0
	50～60歳代	90	2.2	16.7	4.4	26.7	4.4	4.4	21.1	7.8	12.2
	70歳以上	52	0.0	9.6	3.8	13.5	3.8	15.4	23.1	7.7	23.1
(ポイント)											
(1)現実と(2)希望の差											
男性	18～20歳代	42	28.6	21.5	7.1	11.9	4.7	7.1	19.0	2.4	7.1
	30～40歳代	80	31.2	16.3	5.0	8.8	2.5	5.0	16.2	0.0	0.0
	50～60歳代	70	34.3	2.9	0.0	7.1	4.3	2.8	12.9	7.1	2.8
	70歳以上	50	22.0	4.0	0.0	2.0	2.0	0.0	14.0	2.0	6.0
女性	18～20歳代	53	26.4	11.4	1.9	1.9	0.0	5.6	11.3	3.7	1.9
	30～40歳代	84	16.7	1.2	0.0	3.6	1.2	6.0	8.3	0.0	3.6
	50～60歳代	90	18.9	10.0	1.1	3.4	1.1	0.0	20.0	0.0	3.3
	70歳以上	52	23.1	3.9	0.0	1.9	1.9	15.4	15.4	5.8	1.9

問 20 「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」を推進するために、職場に取り組んでほしいことはありますか。【〇は3つまで】

「ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)」の推進のために職場に期待することについては、男女で回答傾向に差がみられ、男性では「年次有給休暇の取得促進」が 33.1%で最も高く、女性では「育児・介護休業など、休業中の経済的支援」が 31.2%で最も高くなっています。



性年代別にみると、30～40歳代女性において「短時間勤務制度」が40.5%と非常に高くなっています。「再雇用制度（妊娠、出産、育児、介護等により退職した従業員の）」については、男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向がみられます。

【性年代別】

(3LA%)

	回答者数	短時間勤務制度	所定外労働の免除	始業・終業時刻の繰上げ、繰下げ	フレックスタイム制度	在宅勤務制度	社内託児施設の設置運営、その他これに準ずる便宜の供与	子ども、家族のための看護休暇制度	資格取得などの自己啓発のための休暇制度	社会貢献のための休暇制度	育児・介護休業など、休業中の経済的支援	年次有給休暇の取得促進	再雇用制度（妊娠、出産、育児、介護等により退職した従業員の～）	その他	わからない	特になし	無回答	
男性	18～20歳代	42	16.7	26.2	16.7	14.3	14.3	2.4	19.0	11.9	9.5	16.7	38.1	7.1	2.4	14.3	4.8	4.8
	30～40歳代	80	25.0	23.8	21.3	22.5	8.8	3.8	16.3	7.5	6.3	16.3	31.3	8.8	6.3	8.8	10.0	1.3
	50～60歳代	70	20.0	4.3	2.9	25.7	18.6	8.6	20.0	10.0	15.7	17.1	37.1	28.6	1.4	7.1	5.7	1.4
	70歳以上	50	10.0	10.0	8.0	14.0	14.0	8.0	20.0	14.0	12.0	24.0	26.0	28.0	2.0	12.0	4.0	12.0
女性	18～20歳代	53	30.2	15.1	15.1	18.9	24.5	7.5	11.3	9.4	5.7	35.8	26.4	20.8	3.8	7.5	3.8	3.8
	30～40歳代	84	40.5	17.9	20.2	28.6	17.9	13.1	23.8	6.0	1.2	29.8	23.8	16.7	0.0	8.3	3.6	0.0
	50～60歳代	90	12.2	7.8	15.6	21.1	7.8	12.2	25.6	5.6	4.4	27.8	28.9	26.7	3.3	6.7	8.9	4.4
	70歳以上	52	15.4	3.8	3.8	7.7	11.5	17.3	25.0	3.8	5.8	36.5	13.5	44.2	1.9	1.9	5.8	17.3

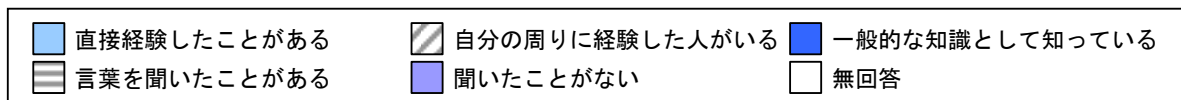
7 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問 21 ドメスティック・バイオレンス、ストーカー行為、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントについて、経験したり、見聞きしたことがありますか。【(ア)～(オ)それぞれに1つずつ○】

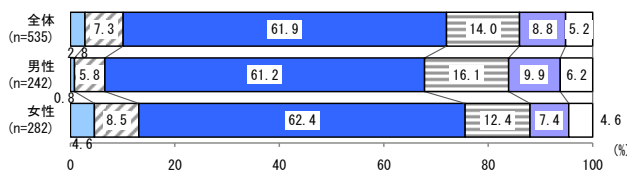
ドメスティック・バイオレンスやハラスメント等の経験については、全体としては「一般的な知識として知っている」の割合が、各項目で最も高くなっています。「直接経験したことがある」と「自分の周りに経験した人がいる」の割合が最も高いのは<(エ)パワー・ハラスメント>となっています。

性別でみると、すべての項目において、女性の方が「直接経験したことがある」の割合が男性よりも高くなっています。

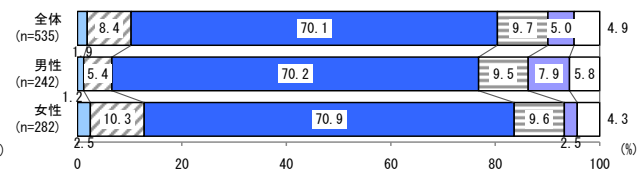
【全体・性別】



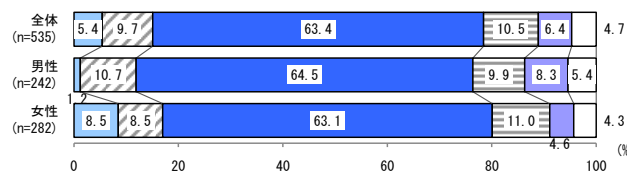
<(ア)ドメスティック・バイオレンス>



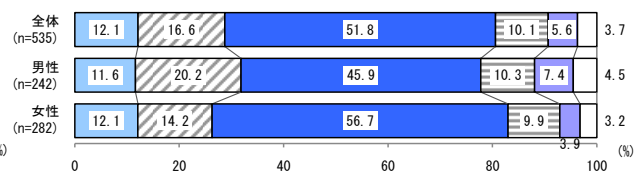
<(イ)ストーカー行為>



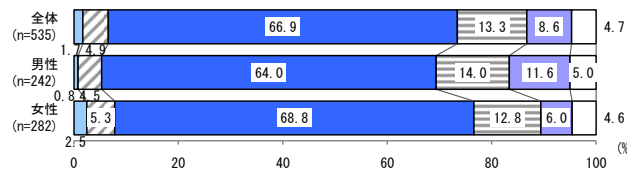
<(ウ)セクシュアル・ハラスメント>



<(エ)パワー・ハラスメント>



<(オ)マタニティ・ハラスメント>



性年代別では、「直接経験したことがある」に着目すると、30～40歳代女性においては、＜（ア）ドメスティック・バイオレンス＞9.5%、＜（ウ）セクシュアル・ハラスメント＞15.5%、＜（エ）パワー・ハラスメント＞23.8%と高く、他世代よりも直接被害の割合が高くなっています。

なお、70歳以上の男性では、すべての項目において「聞いたことがない」の割合が他世代と比較して高くなっています。

【性年代別】

(%)

	回答者数	ある直接経験したことがある	た自分の周りに経験した人がある	知一般的知識として	ある言葉を聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	
(ア)ドメスティック・バイオレンス								
男性	18～20歳代	42	0.0	4.8	71.4	9.5	7.1	7.1
	30～40歳代	80	1.3	10.0	63.8	12.5	8.8	3.8
	50～60歳代	70	1.4	2.9	65.7	18.6	5.7	5.7
	70歳以上	50	0.0	4.0	42.0	24.0	20.0	10.0
女性	18～20歳代	53	3.8	5.7	67.9	13.2	9.4	0.0
	30～40歳代	84	9.5	14.3	69.0	4.8	1.2	1.2
	50～60歳代	90	1.1	7.8	60.0	13.3	11.1	6.7
	70歳以上	52	3.8	3.8	48.1	23.1	9.6	11.5
(イ)ストーカー行為								
男性	18～20歳代	42	0.0	4.8	78.6	4.8	4.8	7.1
	30～40歳代	80	1.3	11.3	67.5	7.5	8.8	3.8
	50～60歳代	70	2.9	2.9	77.1	8.6	4.3	4.3
	70歳以上	50	0.0	0.0	58.0	18.0	14.0	10.0
女性	18～20歳代	53	3.8	11.3	66.0	15.1	1.9	1.9
	30～40歳代	84	3.6	15.5	76.2	3.6	0.0	1.2
	50～60歳代	90	1.1	7.8	71.1	10.0	5.6	4.4
	70歳以上	52	1.9	5.8	65.4	13.5	1.9	11.5
(ウ)セクシュアル・ハラスメント								
男性	18～20歳代	42	0.0	16.7	66.7	4.8	4.8	7.1
	30～40歳代	80	2.5	15.0	66.3	6.3	8.8	1.3
	50～60歳代	70	1.4	8.6	70.0	10.0	4.3	5.7
	70歳以上	50	0.0	2.0	52.0	20.0	16.0	10.0
女性	18～20歳代	53	3.8	7.5	64.2	18.9	3.8	1.9
	30～40歳代	84	15.5	14.3	65.5	4.8	0.0	0.0
	50～60歳代	90	6.7	5.6	63.3	11.1	7.8	5.6
	70歳以上	52	5.8	5.8	55.8	13.5	7.7	11.5
(エ)パワー・ハラスメント								
男性	18～20歳代	42	7.1	23.8	50.0	7.1	4.8	7.1
	30～40歳代	80	15.0	26.3	43.8	7.5	7.5	0.0
	50～60歳代	70	17.1	20.0	42.9	8.6	7.1	4.3
	70歳以上	50	2.0	8.0	50.0	20.0	10.0	10.0
女性	18～20歳代	53	5.7	15.1	62.3	13.2	3.8	0.0
	30～40歳代	84	23.8	15.5	58.3	2.4	0.0	0.0
	50～60歳代	90	10.0	15.6	52.2	11.1	7.8	3.3
	70歳以上	52	3.8	9.6	53.8	17.3	3.8	11.5
(オ)マタニティ・ハラスメント								
男性	18～20歳代	42	0.0	4.8	66.7	14.3	7.1	7.1
	30～40歳代	80	1.3	7.5	70.0	10.0	10.0	1.3
	50～60歳代	70	1.4	2.9	68.6	14.3	8.6	4.3
	70歳以上	50	0.0	2.0	46.0	20.0	22.0	10.0
女性	18～20歳代	53	1.9	3.8	66.0	20.8	5.7	1.9
	30～40歳代	84	4.8	13.1	73.8	6.0	1.2	1.2
	50～60歳代	90	0.0	2.2	68.9	11.1	11.1	6.7
	70歳以上	52	3.8	0.0	63.5	17.3	5.8	9.6

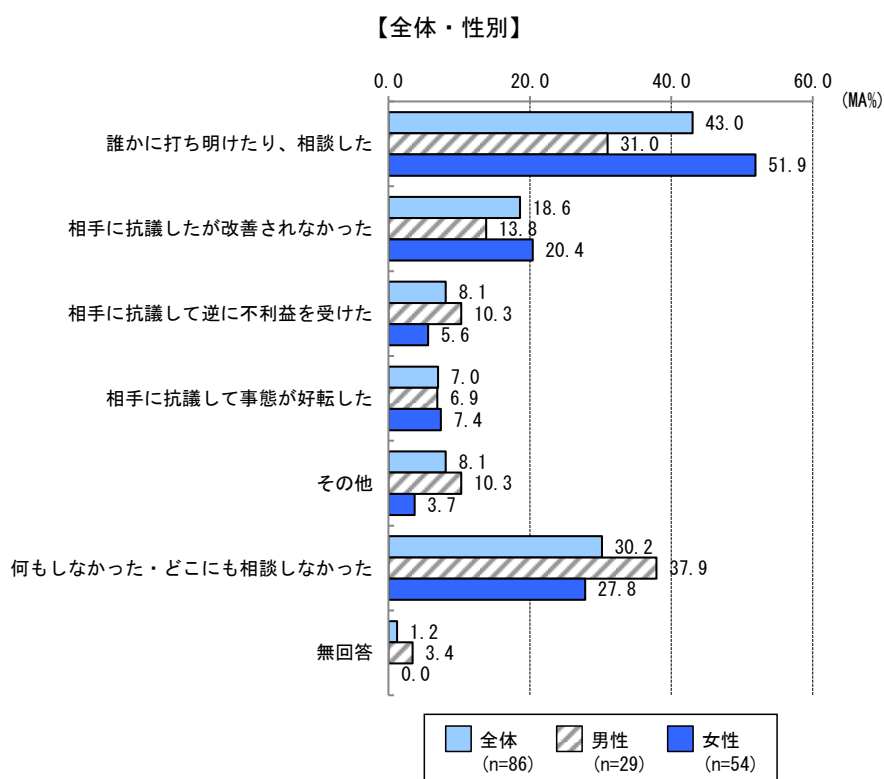
問 21 で、「1.直接経験したことがある」を1つでも回答した方のみお答えください。

問 21-1 それらの被害を受けた時、あなたはどのように対応しましたか。【あてはまるものすべてに○】

直接被害を経験した方が、被害を受けた時にどう対応したかについては、全体では「誰かに打ち明けたり、相談した」が43.0%と最も高く、次いで「何もしなかった・どこにも相談しなかった」30.2%となっています。

性別にみると、女性は「誰かに打ち明けたり、相談した」が51.9%と半数を占め最も高い一方、男性では「何もしなかった・どこにも相談しなかった」が37.9%と最も高くなっています。

また、女性も「何もしなかった・どこにも相談しなかった」の割合が27.8%と高く、「相手に抗議したが改善されなかった」も20.4%と高くなっています。



問 21-1 で、「6.何もなかった・どこにも相談しなかった」を回答した方のみお答えください。

問 21-2 どこへも相談しなかった理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

※回答者数が少数であることにご留意ください

相談しなかった理由としては、全体では「相談しても無駄だと思った」が 65.4%で過半数を占め最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」34.6%、「相談するほどのことではないと思った」26.9%が高くなっています。

【全体・性別】

(上段:実数、下段:MA%)

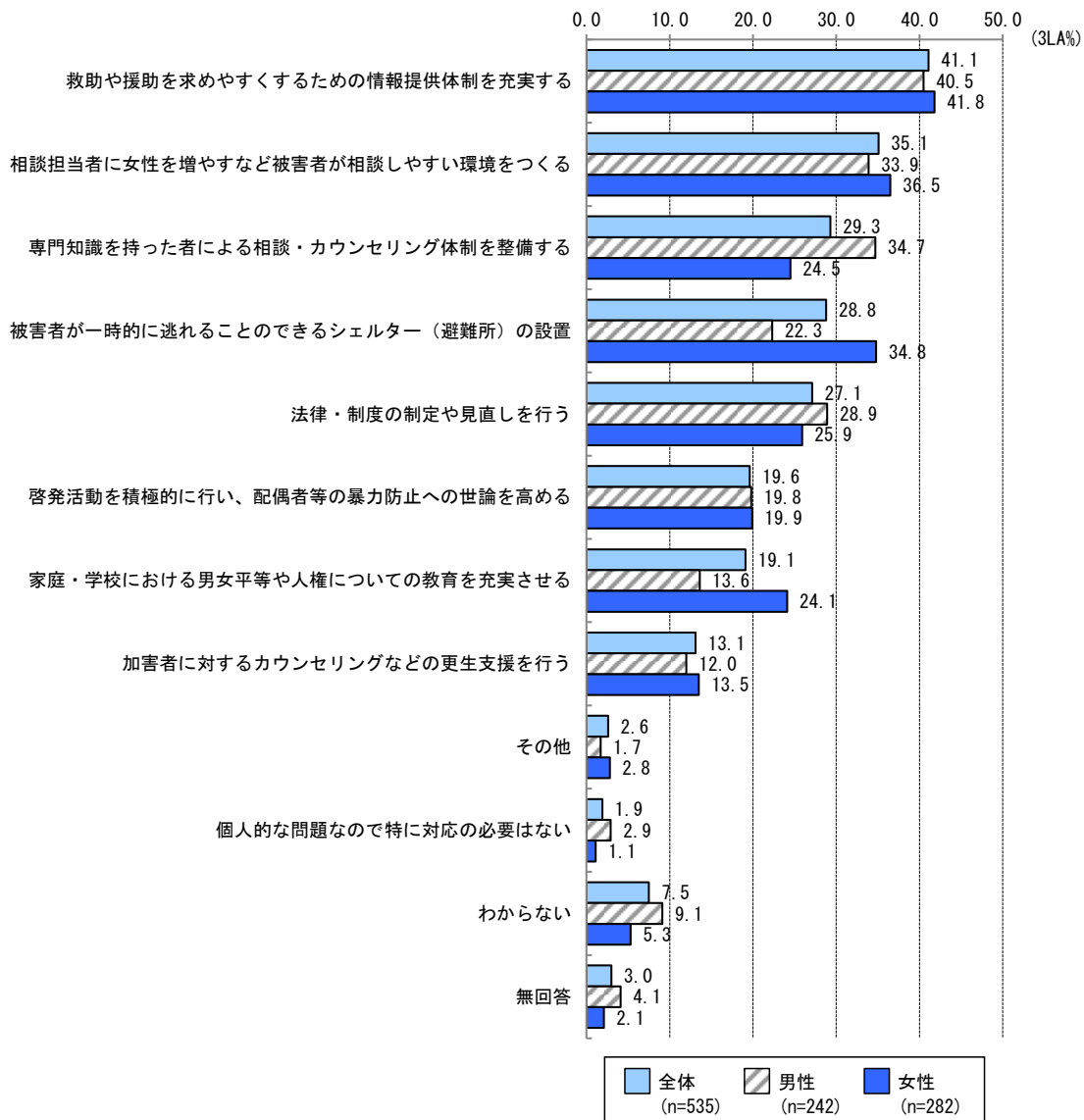
	全 体	た ら 誰 よ い ど か 分 か ら な か つ た	思 相 談 し て も 無 駄 だ と	か が 悪 く か し く て 相 談 で き な か つ た	恥 ず か し く て 相 談 で き な か つ た	他 人 を 巻 き 込 み た く な か つ た	動 機 を よ り 不 快 な 思 い を 持 つ た	相 談 窓 口 の 担 当 者 の 言 い か ら か の ま ま や ば つ た	自 分 さ え 我 慢 す れ ば 、 な ん と か こ の ま ま や っ て い け る と 思 っ た	そ の こ と に つ い て 思 い 出 し た く な か つ た	受 け ら れ た と 思 っ た 暴 力 を 返 す と 思 っ た	相 談 が わ か ら な い と 思 っ た	相 手 に 脅 さ れ た よ う な こ と が あ る と 思 っ た	自 分 に も 悪 い と 思 っ た	た す 相 手 の 愛 情 表 現 は 自 分 に 対 し て 思 っ た	は 相 談 す る ほ ど の こ と で 思 っ た	そ の 他
全体	26 100.0	4 15.4	17 65.4	4 15.4	2 7.7	0 0.0	9 34.6	4 15.4	4 15.4	0 0.0	4 15.4	1 3.8	7 26.9	6 23.1			
男性	11 100.0	2 18.2	7 63.6	2 18.2	2 18.2	0 0.0	2 18.2	2 18.2	2 18.2	0 0.0	4 36.4	1 9.1	2 18.2	2 18.2			
女性	15 100.0	2 13.3	10 66.7	2 13.3	0 0.0	0 0.0	7 46.7	2 13.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 33.3	4 26.7			

問 22 夫婦やパートナー間の暴力に対する対策として、どのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】

夫婦やパートナー間の暴力に対する対策として必要なことについて、全体では「救助や援助を求めやすくするための情報提供体制を充実する」が 41.1%で最も高く、次いで「相談担当者に女性を増やすなど被害者が相談しやすい環境をつくる」35.1%が高くなっています。

性別でみると、男性では「専門知識を持った者による相談・カウンセリング体制を整備する」34.7%、女性では「被害者が一時的に逃れることのできるシェルター（避難所）の設置」34.8%がともに3割強にのぼっており、男女間で差がみられます。

【全体・性別】



性年代別にみると、「救助や援助を求めやすくするための情報提供体制を充実する」では、特に50～60歳代の男女でともに約半数を占め高くなっています。また、18～20歳代では男女ともに「法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が高い傾向がみられます。

【性年代別】

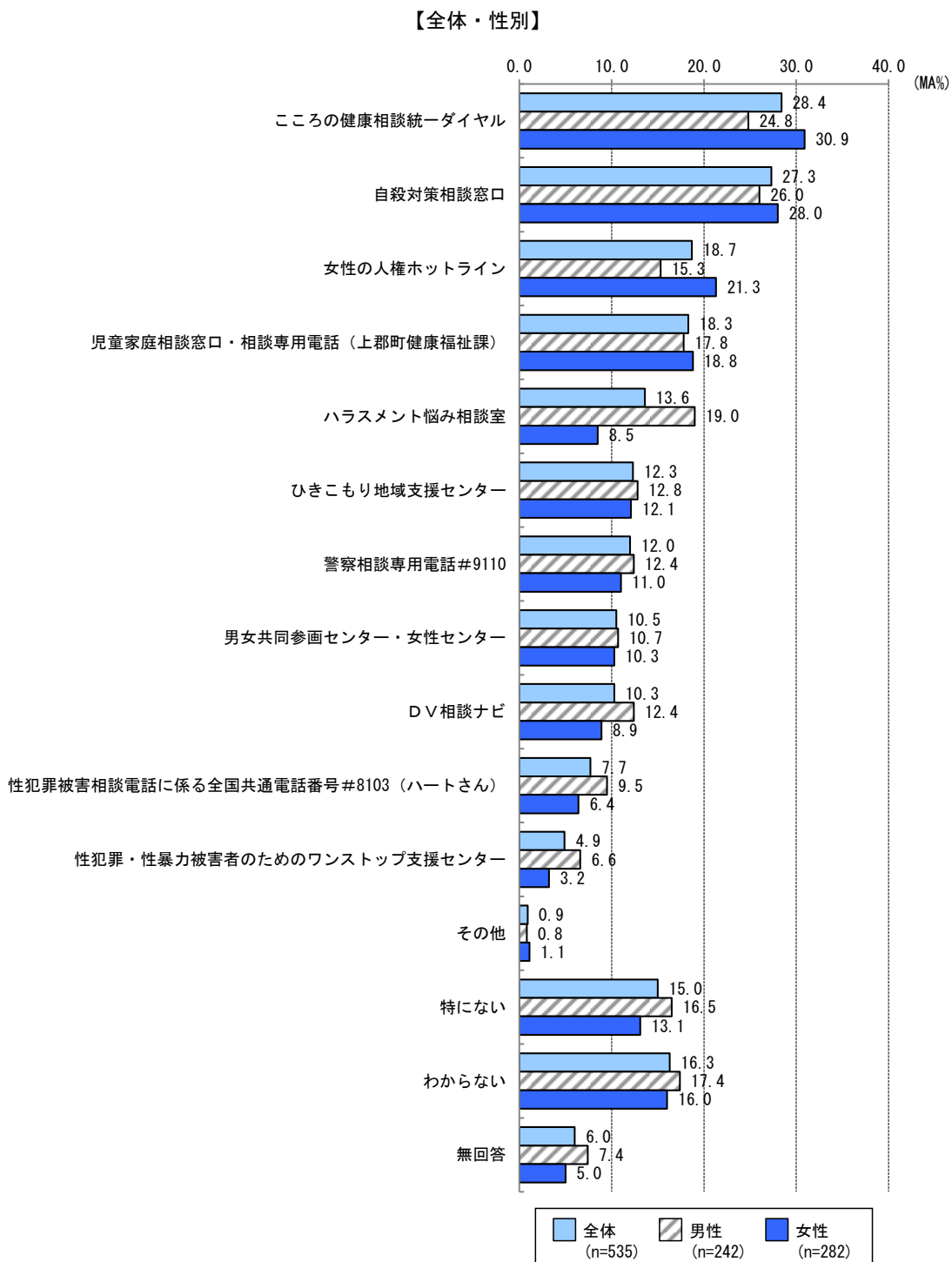
(3LA%)

	回答者数	専門知識を持った者による相談・カウンセリング体制を整備する	相談担当者に女性を増やすなど被害者が相談しやすい環境をつくる	の救助や援助を求めやすくするための情報提供体制を充実する	啓発活動や積極的な世論を高める	家庭・学校における男女平等や人権についての教育を充実させる	加害者に対するカウンセリングなどの更生支援を行う	法律・制度の制定や見直しを行う	被害者が一時的に逃れることのできるシェルター（避難所）の設置	その他	個人的な問題なので特に対応の必要はない	わからない	無回答	
男性	18～20歳代	42	33.3	31.0	38.1	19.0	7.1	14.3	35.7	28.6	2.4	0.0	4.8	7.1
	30～40歳代	80	36.3	35.0	38.8	21.3	10.0	10.0	30.0	25.0	3.8	6.3	7.5	1.3
	50～60歳代	70	32.9	37.1	48.6	21.4	15.7	15.7	27.1	21.4	0.0	2.9	8.6	2.9
	70歳以上	50	36.0	30.0	34.0	16.0	22.0	8.0	24.0	14.0	0.0	0.0	16.0	8.0
女性	18～20歳代	53	15.1	35.8	32.1	26.4	22.6	9.4	39.6	37.7	3.8	0.0	3.8	0.0
	30～40歳代	84	25.0	36.9	41.7	19.0	19.0	22.6	26.2	32.1	3.6	1.2	8.3	0.0
	50～60歳代	90	32.2	34.4	48.9	21.1	24.4	7.8	24.4	37.8	1.1	1.1	4.4	2.2
	70歳以上	52	19.2	40.4	38.5	13.5	32.7	13.5	13.5	32.7	3.8	1.9	3.8	7.7

問 23 女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などについて、あなたが知っているものを、この中からいくつかあげてください。【あてはまるものすべてに○】

知っている相談窓口などについては、全体では「こころの健康相談統一ダイヤル」、「自殺対策相談窓口」がともに3割弱と高くなっています。一方「特にない」15.0%と「わからない」16.3%の合計も31.3%にのびります。

性別にみると、回答傾向にやや差がみられ、上位2項目の他に、女性では「女性の人権ホットライン」21.3%が高く、男性は「ハラスメント悩み相談室」19.0%が高くなっています。



性年代別にみると、男女ともに「こころの健康相談統一ダイヤル」の認知度は60歳代以下の世代で高く、70歳以上では低くなっています。「児童家庭相談窓口・相談専用電話（上郡町健康福祉課）」については、年代が上がるにつれ認知度上がる傾向がみられます。70歳以上では男女ともに「わからない」の割合が2割台と高くなっています。

【性年代別】

(MA%)

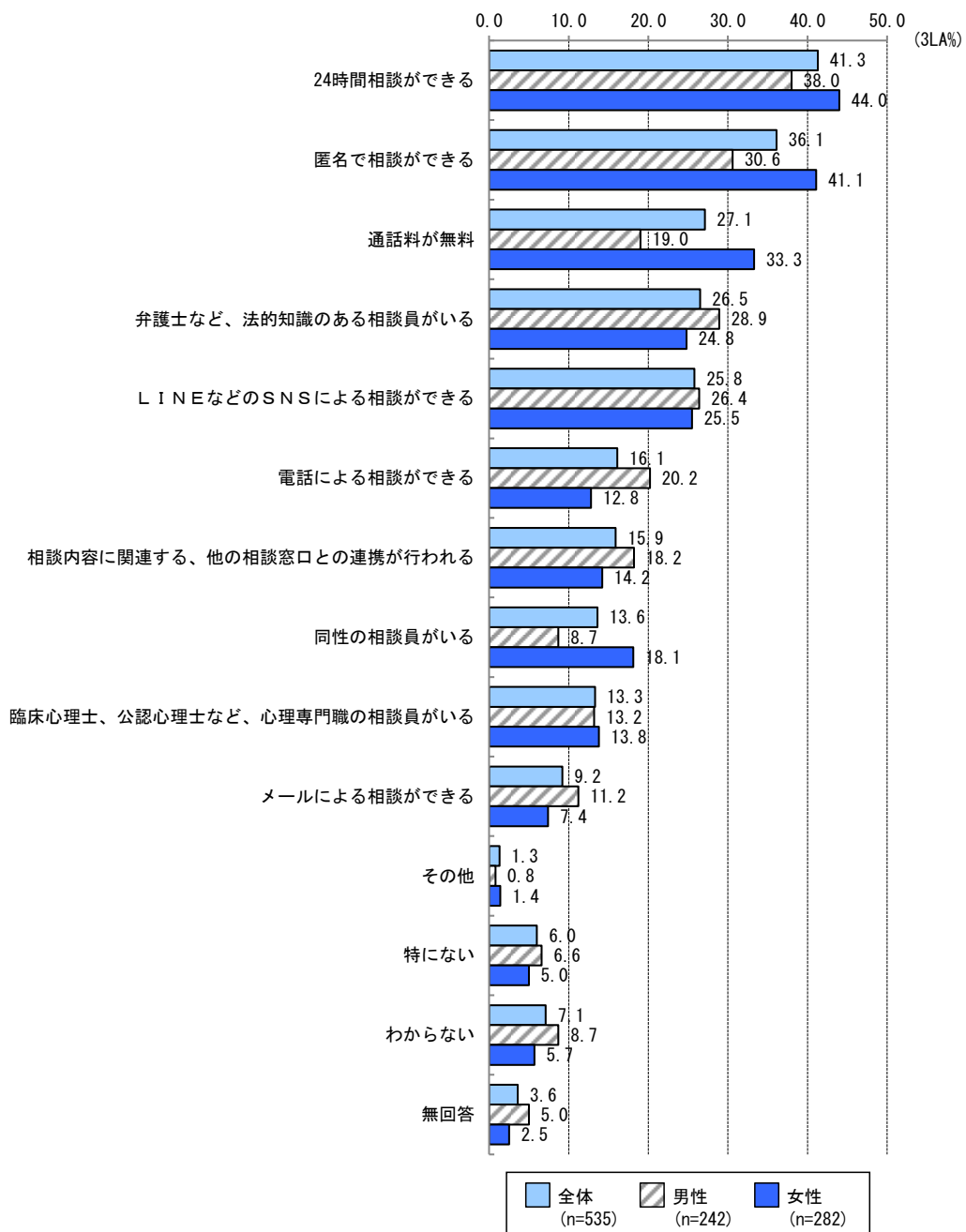
		回答者数	DV相談ナビ	性犯罪被害相談電話に係る全国共通 電話番号#8103（ハートさん） ストツブ支援センター	性犯罪被害相談電話に係る全国共通 電話番号#8103（ハートさん）	ひきこもり地域支援センター	女性の人権ホットライン	自殺対策相談窓口	こころの健康相談統一ダイヤル	ハラスメント悩み相談室	警察相談専用電話#9110	男女共同参画センター・ 女性センター	児童家庭相談窓口・相談専用電話 （上郡町健康福祉課）	その他	特にない	わからない	無回答
男性	18～20歳代	42	9.5	2.4	11.9	11.9	19.0	23.8	28.6	9.5	9.5	7.1	7.1	2.4	16.7	14.3	7.1
	30～40歳代	80	13.8	7.5	10.0	7.5	18.8	30.0	27.5	26.3	12.5	10.0	16.3	0.0	20.0	17.5	1.3
	50～60歳代	70	12.9	11.4	11.4	21.4	15.7	30.0	30.0	21.4	18.6	17.1	21.4	1.4	15.7	14.3	7.1
	70歳以上	50	12.0	2.0	4.0	10.0	6.0	16.0	10.0	12.0	6.0	6.0	24.0	0.0	12.0	24.0	18.0
女性	18～20歳代	53	9.4	7.5	5.7	5.7	26.4	26.4	28.3	15.1	13.2	11.3	7.5	0.0	15.1	13.2	0.0
	30～40歳代	84	16.7	6.0	3.6	11.9	27.4	33.3	41.7	8.3	9.5	6.0	15.5	1.2	10.7	13.1	1.2
	50～60歳代	90	4.4	0.0	5.6	13.3	13.3	34.4	28.9	7.8	7.8	14.4	22.2	1.1	16.7	16.7	6.7
	70歳以上	52	3.8	0.0	9.6	17.3	21.2	7.7	19.2	3.8	15.4	7.7	30.8	1.9	9.6	21.2	13.5

問 24 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。【〇は3つまで】

暴力や様々な悩みに関する相談窓口に求める配慮としては、全体では「24 時間相談できる」が 41.3%と最も高く、次いで「匿名で相談できる」36.1%が高くなっています。

性別にみると、女性では上位 2 項目に加え「通話料が無料」も 33.3%と 3 割を超え高くなっています。

【全体・性別】



性年代別にみると、「LINEなどのSNSによる相談ができる」では、若い年代ほど割合が高く、特に18～20歳代では男女とも約半数を占め最も高くなっています。一方、「電話による相談ができる」は年代が上がるにつれ割合が高くなっています。「24時間相談ができる」では60歳代以下の世代で高い傾向があり、特に30～40歳代女性においては約6割にのびります。

【性年代別】

(3LA%)

	回答者数	メールによる相談ができる	LINEなどのSNSによる相談ができる	電話による相談ができる	通話料が無料	24時間相談ができる	相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	同性の相談員がいる	匿名で相談ができる	弁護士など、法的知識のある相談員がいる	臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる	その他	特になし	わからない	無回答	
男性	18～20歳代	42	9.5	47.6	9.5	19.0	38.1	11.9	4.8	47.6	23.8	16.7	2.4	2.4	7.1	7.1
	30～40歳代	80	11.3	33.8	16.3	27.5	48.8	12.5	12.5	30.0	25.0	12.5	0.0	7.5	8.8	0.0
	50～60歳代	70	12.9	18.6	22.9	14.3	40.0	27.1	10.0	21.4	31.4	15.7	0.0	5.7	11.4	4.3
	70歳以上	50	10.0	8.0	32.0	12.0	18.0	20.0	4.0	30.0	36.0	8.0	2.0	10.0	6.0	12.0
女性	18～20歳代	53	9.4	49.1	1.9	32.1	45.3	11.3	15.1	41.5	22.6	11.3	1.9	1.9	9.4	0.0
	30～40歳代	84	7.1	34.5	4.8	41.7	59.5	9.5	17.9	50.0	21.4	15.5	0.0	1.2	4.8	0.0
	50～60歳代	90	10.0	14.4	18.9	34.4	40.0	15.6	20.0	41.1	27.8	14.4	2.2	3.3	6.7	3.3
	70歳以上	52	1.9	7.7	26.9	21.2	25.0	19.2	15.4	28.8	26.9	13.5	1.9	17.3	1.9	7.7

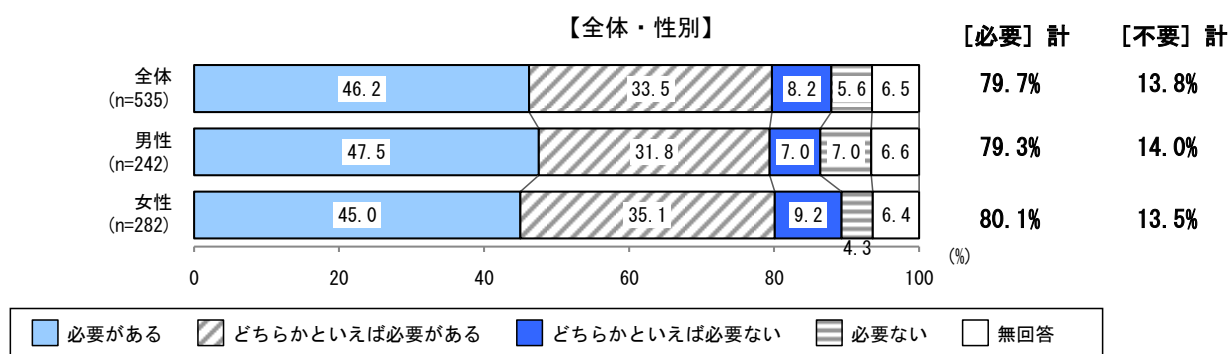
8 防災対策・災害復興対策について

問 25 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。【○は1つ】

性別に配慮した防災・災害復興対策については、全体では「必要がある」が46.2%と約半数を占めており、「必要がある」と「どちらかといえば必要がある」を合わせた[必要]の割合は79.7%にのぼります。

性別でみても、男女ともほぼ同様の回答となっています。

性年代別にみると、どの年代においても[必要]の割合が多くを占め、特に[必要]が高いのは、男女とも30～60歳代となっており、30～40歳代女性では9割を超えています。一方、比較的[不要]の割合が高いのは、18～20歳代女性と70歳以上の女性で、ともに[不要]が2割強となっています。



【性年代別】

		回答者数	必要がある	どちらかといえば 必要がある かといえ ば	どちらか といえ ば必要 ない かとい え	必要 ない	無 回 答	合計 (%)	
								「必要」	「不要」
男性	18～20歳代	42	47.6	31.0	4.8	9.5	7.1	78.6	14.3
	30～40歳代	80	53.8	28.8	5.0	12.5	0.0	82.6	17.5
	50～60歳代	70	44.3	37.1	7.1	1.4	10.0	81.4	8.5
	70歳以上	50	42.0	30.0	12.0	4.0	12.0	72.0	16.0
女性	18～20歳代	53	47.2	28.3	9.4	13.2	1.9	75.5	22.6
	30～40歳代	84	56.0	35.7	4.8	1.2	2.4	91.7	6.0
	50～60歳代	90	41.1	44.4	6.7	2.2	5.6	85.5	8.9
	70歳以上	52	30.8	26.9	21.2	3.8	17.3	57.7	25.0

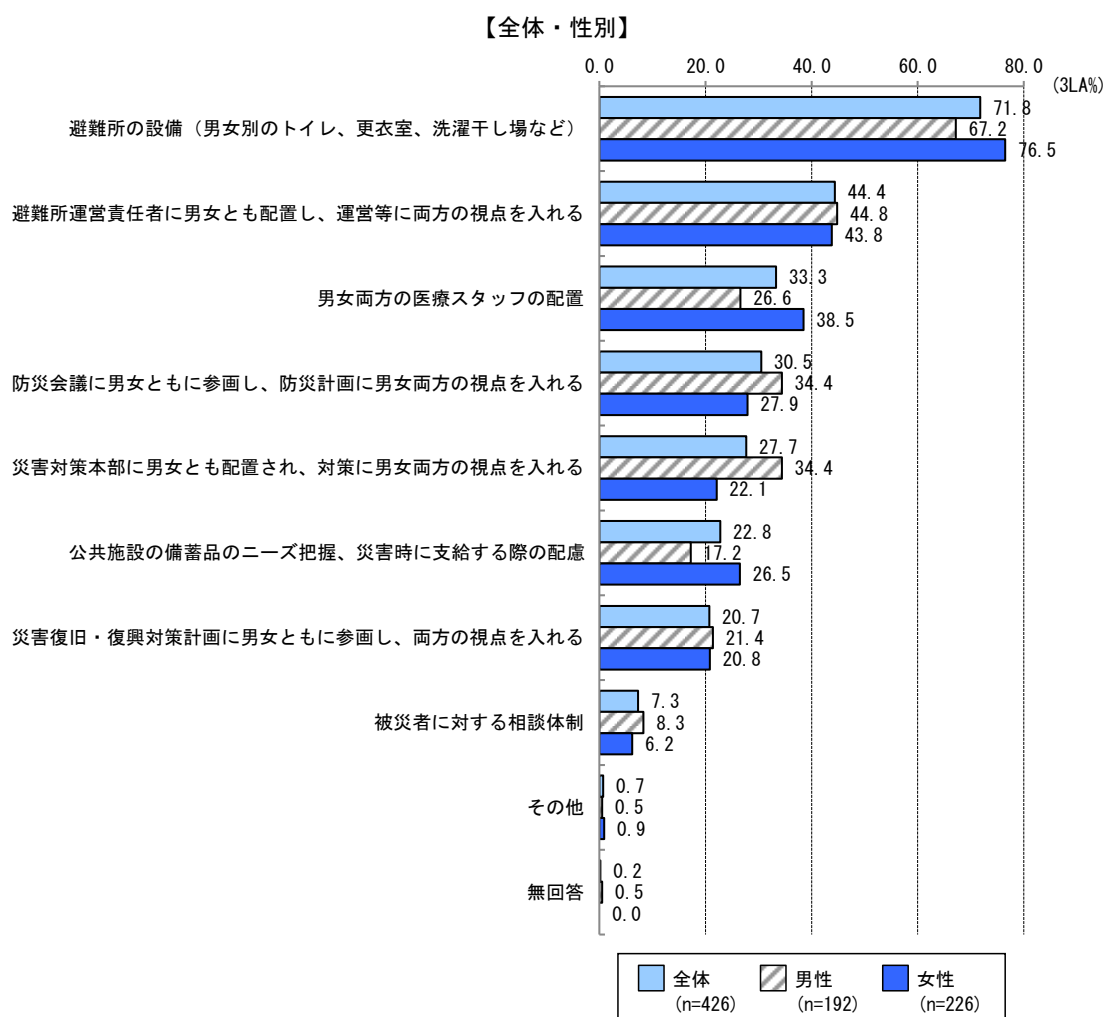
(%)

問 25 で、「1.必要がある」又は「2.どちらかといえば必要がある」を回答した方のみお答えください。

問 25-1 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことはどのようなことですか。【〇は3つまで】

防災・災害復興対策における性別に配慮した対応について、全体では「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など）」が71.8%で最も高く、次いで「避難所運営責任者に男女とも配置し、運営等に両方の視点を入れる」44.4%となっています。

性別では、男女とも回答傾向は概ね同様となっていますが、男女で比較して差が大きい項目は、男性は「災害対策本部に男女とも配置され、対策に男女両方の視点を入れる」（34.4%）が女性より12.3ポイント高く、女性は「男女両方の医療スタッフの配置」（38.5%）が男性より11.9ポイント高くなっています。



性年代別にみると、女性では、若い年代の方が「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など）」の割合が高い傾向があり、一方、「避難所運営責任者に男女とも配置し、運営等に両方の視点を入れる」は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられます。

また、男女ともに 18～20 歳代では他世代と比較して「公共施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮」が高くなっています。

【性年代別】

(3LA%)

	回答者数	防災計画に男女両方の視点を入れる	防災会議に男女両方の視点を入れる	災害復旧・復興対策計画に男女とも	災害対策本部に男女とも配置される	避難所運営等に両方の視点を入れる	避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など）	男女両方の医療スタッフの配置	公共施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮	被災者に対する相談体制	その他	無回答
男性	18～20歳代	33	27.3	21.2	24.2	42.4	60.6	21.2	27.3	6.1	3.0	0.0
	30～40歳代	66	27.3	19.7	37.9	45.5	77.3	34.8	13.6	4.5	0.0	1.5
	50～60歳代	57	40.4	26.3	35.1	47.4	64.9	17.5	19.3	8.8	0.0	0.0
	70歳以上	36	44.4	16.7	36.1	41.7	58.3	30.6	11.1	16.7	0.0	0.0
女性	18～20歳代	40	17.5	15.0	22.5	17.5	82.5	57.5	37.5	5.0	0.0	0.0
	30～40歳代	77	20.8	15.6	14.3	42.9	83.1	40.3	28.6	5.2	2.6	0.0
	50～60歳代	77	41.6	24.7	26.0	53.2	68.8	36.4	20.8	6.5	0.0	0.0
	70歳以上	30	26.7	30.0	33.3	53.3	73.3	16.7	23.3	10.0	0.0	0.0

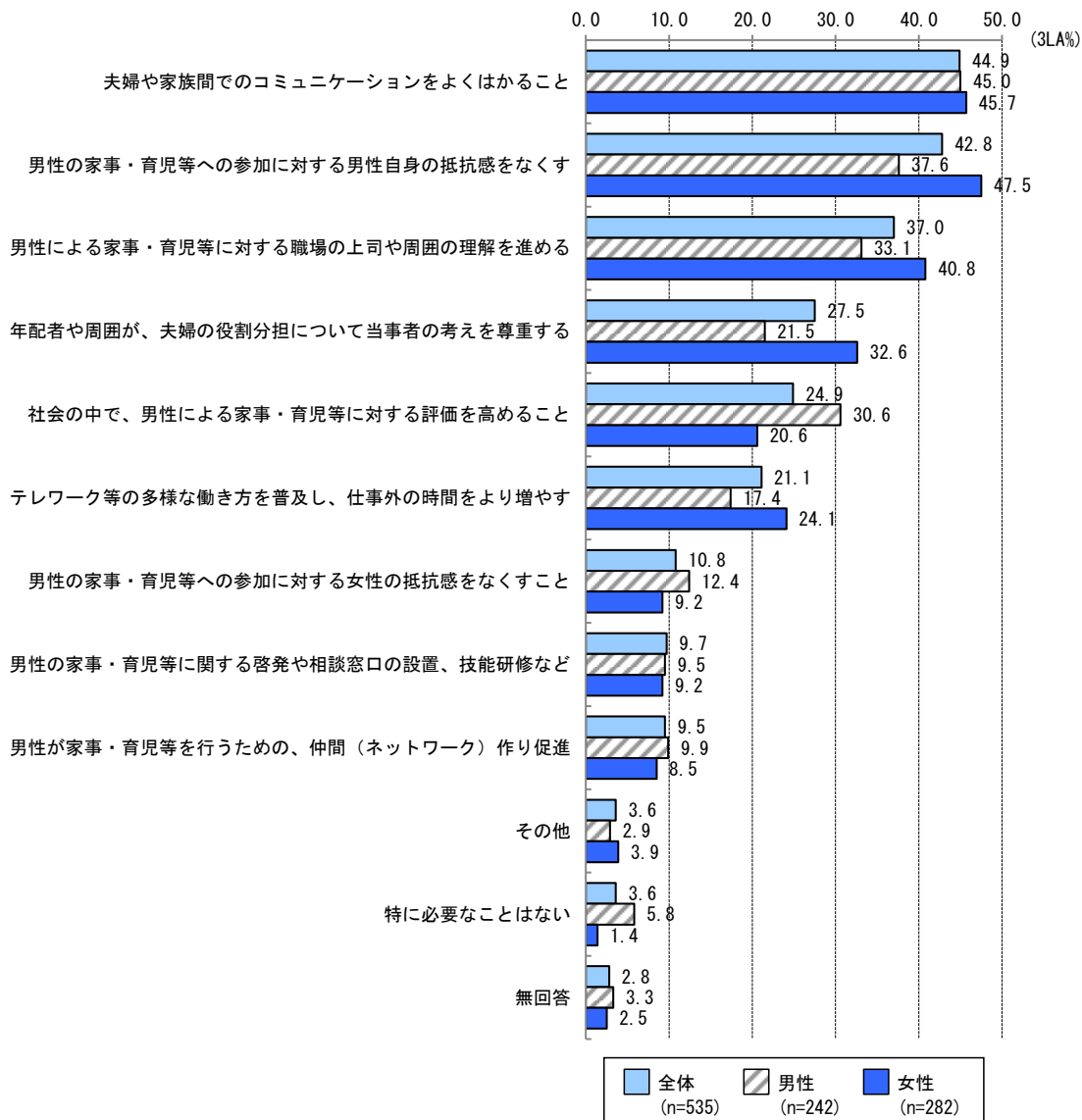
9 男女共同参画のまちづくりについて

問 26 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、全体では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 44.9%で最も高く、次いで「男性の家事・育児等への参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」42.8%となっています。

性別では回答傾向に差がみられ、女性で最も高いのは「男性の家事・育児等への参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」(47.5%)で、男性より 9.9 ポイント高くなっています。一方、男性は「社会の中で、男性による家事・育児等に対する評価を高めること」(30.6%)が女性より 10.0 ポイント上回っています。

【全体・性別】



性年代別にみると、男性では「男性の家事・育児等への参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」において、上の年代の方が割合が高い傾向があり、一方「男性による家事・育児等に対する職場の上司や周囲の理解を進める」では、若い年代の方が高い傾向がみられます。

【性年代別】

(3LA%)

	回答者数	男性の家事・育児等への参加に対する男性自身の抵抗感をなくす	男性の家事・育児等への参加に対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者や周囲が、夫婦の役割分担について当事者の考えを尊重する	社会の中で、男性による家事・育児等に対する評価を高めること	職場の上司や周囲の理解を進める	男性による家事・育児等に対する理解を進める	テレワーク等の多様な働き方を普及し、仕事外の時間をより増やす	男性の家事・育児等に関する啓発や相談窓口の設置、技能研修など	男性が家事・育児等を行うため促進の仲間（ネットワーク）作り	その他	特に必要なことはない	無回答
男性	18～20歳代	42	38.1	4.8	40.5	19.0	28.6	40.5	14.3	4.8	9.5	7.1	4.8	4.8
	30～40歳代	80	26.3	8.8	42.5	23.8	36.3	45.0	25.0	7.5	12.5	3.8	8.8	0.0
	50～60歳代	70	48.6	15.7	47.1	18.6	34.3	25.7	14.3	8.6	8.6	0.0	2.9	5.7
	70歳以上	50	40.0	20.0	50.0	24.0	18.0	18.0	12.0	18.0	8.0	2.0	6.0	4.0
女性	18～20歳代	53	49.1	9.4	41.5	32.1	11.3	39.6	22.6	17.0	11.3	5.7	3.8	3.8
	30～40歳代	84	48.8	9.5	45.2	31.0	20.2	47.6	23.8	4.8	10.7	4.8	0.0	1.2
	50～60歳代	90	46.7	11.1	46.7	35.6	30.0	41.1	23.3	8.9	6.7	2.2	1.1	0.0
	70歳以上	52	46.2	5.8	50.0	32.7	15.4	28.8	28.8	9.6	5.8	3.8	1.9	5.8

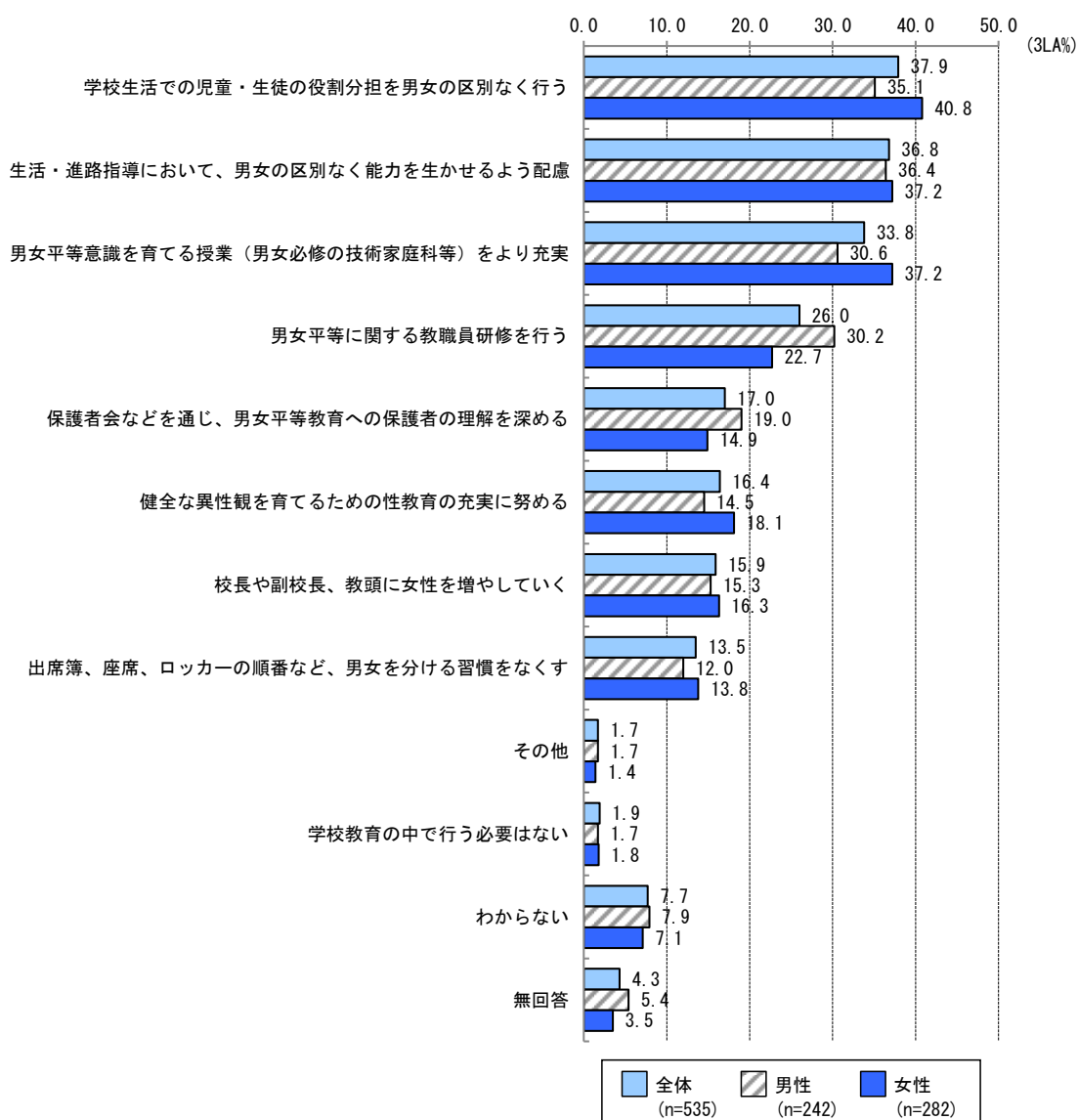
問 27 男女平等を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校等で行うとよいと思うものはどれですか。

【〇は3つまで】

男女平等を推進していくために、小・中・高等学校等で求められる取り組みとして、全体では「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女の区別なく行う」が 37.9%と最も高く、次いで「生活・進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮」36.8%、「男女平等意識を育てる授業（男女必修の技術家庭科等）をより充実」33.8%となっています。

性別では、男女ともに概ね同様の回答傾向がみられますが、特に男性では「男女平等に関する教職員研修を行う」（30.2%）が女性よりも 7.5 ポイント高く、女性では「男女平等意識を育てる授業（男女必修の技術家庭科等）をより充実」（37.2%）が男性より 6.6 ポイント高くなっています。

【全体・性別】



性年代別にみて特徴的な点は、若い年代ほど「出席簿、座席、ロッカーの順番など、男女を分ける習慣をなくす」の割合が高い傾向があり、特に18～20歳代女性では32.1%にのびります。また、男女ともに30～40歳代において「健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める」の割合が他世代よりも高く、ともに2割台となっています。

【性年代別】

(3LA%)

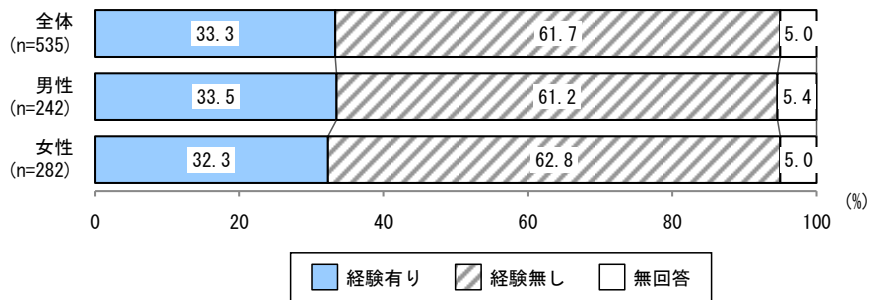
		回答者数	男女平等に関する教職員研修を行う	校長や副校長、教頭に女性を増やしていく	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女の区別なく行う	生活・進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮	男女平等意識を育てる授業（男女必修の技術家庭科等）をより充実	健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める	出席簿、座席、ロッカーの順番など、男女を分ける習慣をなくす	保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める	その他	学校教育の中で行う必要はない	わからない	無回答
男性	18～20歳代	42	26.2	14.3	21.4	28.6	31.0	16.7	21.4	14.3	2.4	4.8	11.9	7.1
	30～40歳代	80	26.3	16.3	46.3	37.5	26.3	21.3	15.0	17.5	2.5	1.3	7.5	0.0
	50～60歳代	70	35.7	11.4	32.9	42.9	37.1	5.7	8.6	24.3	0.0	1.4	5.7	5.7
	70歳以上	50	32.0	20.0	32.0	32.0	28.0	14.0	4.0	18.0	2.0	0.0	8.0	12.0
女性	18～20歳代	53	20.8	20.8	30.2	32.1	26.4	15.1	32.1	13.2	1.9	0.0	13.2	1.9
	30～40歳代	84	16.7	15.5	45.2	27.4	44.0	28.6	16.7	13.1	1.2	4.8	4.8	3.6
	50～60歳代	90	30.0	16.7	48.9	43.3	37.8	12.2	7.8	13.3	1.1	1.1	6.7	1.1
	70歳以上	52	23.1	13.5	30.8	48.1	36.5	15.4	1.9	23.1	1.9	0.0	5.8	7.7

問 28 あなたは、男女共同参画がどういうものなのかということ、学んだり、教えられたりしたことがありますか。【〇は一つ】

「男女共同参画」について学んだり教えられたりした経験については、全体では「経験無し」が61.7%と過半数を占め、性別による差はほとんどみられません。

性年代別にみると、男女とも若い年代ほど「経験有り」の割合が高く、年齢が上がるにつれ割合が低下し、70歳以上の女性においては2割に満たない状況です。

【全体・性別】



【性年代別】

		回答者数	経験有り (%)	経験無し (%)	無回答 (%)
男性	18~20歳代	42	57.1	38.1	4.8
	30~40歳代	80	32.5	66.3	1.3
	50~60歳代	70	28.6	65.7	5.7
	70歳以上	50	22.0	66.0	12.0
女性	18~20歳代	53	47.2	50.9	1.9
	30~40歳代	84	39.3	56.0	4.8
	50~60歳代	90	25.6	72.2	2.2
	70歳以上	52	17.3	71.2	11.5

問 29 次の言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。知っているものをすべて選んでください。

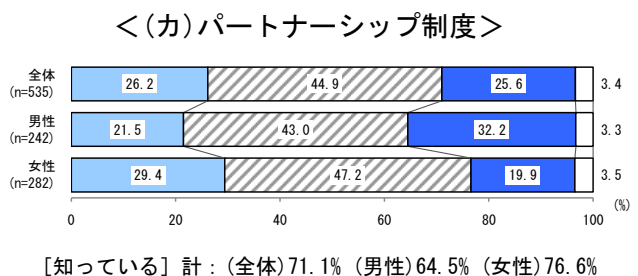
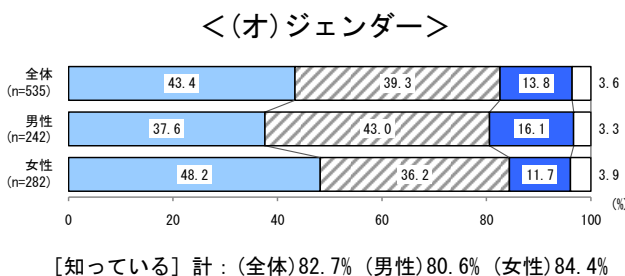
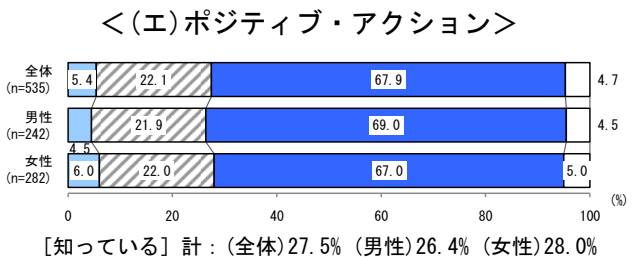
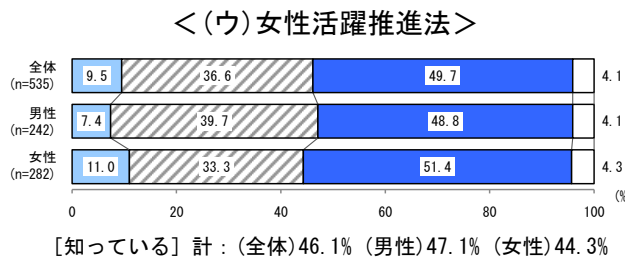
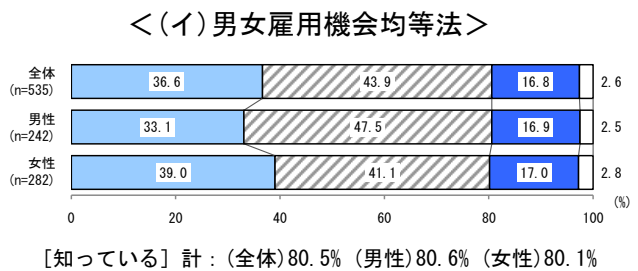
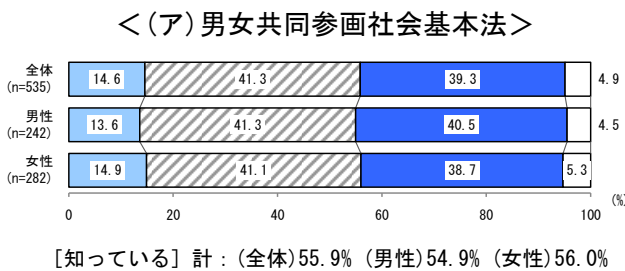
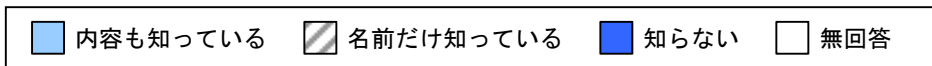
【(ア)～(カ)それぞれに1つずつ〇】

男女共同参画に関する言葉や名称の認知度について、全体で「内容も知っている」、「名前だけ知っている」を合計した[知っている]割合が7割以上となっているのは、<(イ)男女雇用機会均等法>、<(オ)ジェンダー>、<(カ)パートナーシップ制度>とないっています。中でも<(オ)ジェンダー>は「内容も知っている」が43.4%と約半数にのぼり、最も認知度が高くなっています。

一方、<(エ)ポジティブ・アクション>では「知らない」が約7割を占めています。

性別では、男女とも概ね同様の回答傾向ですが、<(オ)ジェンダー>と<(カ)パートナーシップ制度>においては、女性の認知度が男性より高くなっています。<(オ)ジェンダー>の「内容も知っている」割合は女性で48.2%と男性より10.6ポイント高く、<(カ)パートナーシップ制度>では、[知っている]合計の割合が女性では76.6%で、男性より12.1ポイント上回っています。

【全体・性別】



性年代別でみると、特に世代間で差がみられたのは<(オ)ジェンダー>で、「内容も知っている」の割合は、男女とも年齢が上がるにつれ低くなり、「知らない」の割合は男女とも70歳以上で3割弱にのびります。

【性年代別】

						(%)							(%)		
		回答者数	内容も知っている	名前だけ知っている	知らない	無回答	「知っている」合計			内容も知っている	名前だけ知っている	知らない	無回答	「知っている」合計	
(ア) 男女共同参画社会基本法								(イ) 男女雇用機会均等法							
男性	18～20歳代	42	28.6	38.1	28.6	4.8	66.7		45.2	35.7	16.7	2.4	80.9		
	30～40歳代	80	12.5	36.3	50.0	1.3	48.8		32.5	43.8	23.8	0.0	76.3		
	50～60歳代	70	10.0	44.3	41.4	4.3	54.3		30.0	55.7	10.0	4.3	85.7		
	70歳以上	50	8.0	48.0	34.0	10.0	56.0		28.0	52.0	16.0	4.0	80.0		
女性	18～20歳代	53	24.5	45.3	28.3	1.9	69.8		39.6	37.7	20.8	1.9	77.3		
	30～40歳代	84	14.3	40.5	41.7	3.6	54.8		38.1	42.9	15.5	3.6	81.0		
	50～60歳代	90	8.9	44.4	41.1	5.6	53.3		41.1	42.2	15.6	1.1	83.3		
	70歳以上	52	15.4	34.6	38.5	11.5	50.0		34.6	42.3	17.3	5.8	76.9		
(ウ) 女性活躍推進法								(エ) ポジティブ・アクション							
男性	18～20歳代	42	9.5	45.2	42.9	2.4	54.7		7.1	26.2	64.3	2.4	33.3		
	30～40歳代	80	8.8	40.0	48.8	2.5	48.8		6.3	21.3	71.3	1.3	27.6		
	50～60歳代	70	8.6	40.0	47.1	4.3	48.6		2.9	24.3	67.1	5.7	27.2		
	70歳以上	50	2.0	34.0	56.0	8.0	36.0		2.0	16.0	72.0	10.0	18.0		
女性	18～20歳代	53	11.3	35.8	50.9	1.9	47.1		9.4	20.8	67.9	1.9	30.2		
	30～40歳代	84	15.5	27.4	53.6	3.6	42.9		4.8	19.0	71.4	4.8	23.8		
	50～60歳代	90	5.6	38.9	51.1	4.4	44.5		2.2	23.3	70.0	4.4	25.5		
	70歳以上	52	13.5	28.8	50.0	7.7	42.3		9.6	25.0	55.8	9.6	34.6		
(オ) ジェンダー								(カ) パートナーシップ制度							
男性	18～20歳代	42	57.1	33.3	7.1	2.4	90.4		23.8	40.5	33.3	2.4	64.3		
	30～40歳代	80	43.8	40.0	16.3	0.0	83.8		28.8	37.5	32.5	1.3	66.3		
	50～60歳代	70	32.9	48.6	15.7	2.9	81.5		15.7	48.6	32.9	2.9	64.3		
	70歳以上	50	18.0	48.0	24.0	10.0	66.0		16.0	46.0	30.0	8.0	62.0		
女性	18～20歳代	53	58.5	28.3	9.4	3.8	86.8		32.1	35.8	30.2	1.9	67.9		
	30～40歳代	84	53.6	36.9	6.0	3.6	90.5		38.1	40.5	17.9	3.6	78.6		
	50～60歳代	90	45.6	42.2	8.9	3.3	87.8		24.4	55.6	17.8	2.2	80.0		
	70歳以上	52	32.7	32.7	28.8	5.8	65.4		19.2	57.7	15.4	7.7	76.9		

10 自由意見

問 30 上郡町において、男女がともに参画できるまちづくりを進めることについて、ご意見・ご要望等がございましたら、どのようなことでも結構ですのでご記入ください。

上郡町における男女共同参画のまちづくりに関する意見を自由記述で質問したところ、78 人から回答をいただきました。意見内容に応じた分類分けと件数は下表の通りです。

【自由意見分類表】

意見分類		件数
①	子育て世代、若い世代が住みやすいまちづくりの必要性	16
②	固定観念、年配者の意識改革の必要性	11
③	町民の理解促進、啓発活動の必要性(研修・講演会、学ぶきっかけづくり等)	9
④	女性の社会進出、女性の声の必要性	8
⑤	役場等の公的機関の男女共同参画、理解向上の必要性	8
⑥	効果的な取り組みの必要性	8
⑦	働ける場所の創出の必要性	7
⑧	子ども時代からの教育の必要性	7
⑨	男性の家事・育児参加支援の必要性	6
⑩	「男女平等」「男女共同参画」に対する疑問等	6
⑪	上郡町の地域性による困難さに関する意見	5
⑫	アンケート調査に対する意見	5
⑬	「男女」に拘りすぎない、一人の人間としての意識	5
⑭	町行政・町への不満	3
⑮	男女がともに働きやすい職場づくりの必要性	3
⑯	性別による違い・特性の尊重に関する意見	3
⑰	話し合い、憩いの場等の必要性	3
⑱	世代交代、若者活躍の必要性	2
⑲	高齢者活躍の必要性	2
⑳	被害者支援、相談支援の充実の必要性	2
㉑	その他	9

※一人の回答者が複数の意見を出す場合があるため、意見の合計件数は回答者の人数を上回ります。

分類ごとの意見の抜粋は下表の通りです。なお、一つの回答に複数の分類にまたがる意見が含まれることがあります。

【自由意見抜粋】

①子育て世代、若い世代が住みやすいまちづくりの必要性

意見内容	性別	年齢
上郡町の子供への助成金を出す。一人親だけでなく、夫婦の家庭にも手厚い助成をする。買物助成金を出す。	女性	40 歳代
男女共同参画により、子供を産み育てやすい町にして若い人に住んでもらう事が大切。	女性	40 歳代
学生に手厚い助成をすることが大事。子供に対して助成を行う。買物や、飲食店等に割引制度を行う。	男性	20 歳代 以下
男女参画の推進は全国的に必要だとは思いますが、それよりまずは子育てしやすい町にしてほしいです。職場、SNS 等でも他の町の子育て支援のことを良く聞きますが、上郡は支援が少ないです。男女参画は子育て支援が整っていないと推進できないと思います。	男性	30 歳代
若者が安心して住み続けられる「町づくり」に男女共参画は重要だと考えます。出生数の減少、地域の高齢化等問題はありますが、男女がともに助け合える環境づくりを進めていただきたいと思います。	女性	60 歳代
産業の振興及び子供を育てやすい環境(教育の無料化、就職の選択肢を増やすこと等)が必要と思われます。	男性	60 歳代

②固定観念、年配者の意識改革の必要性

意見内容	性別	年齢
高齢者の多い田舎では、まずは高齢者に対して今時の男女の在り方、夫婦の在り方を知ってもらうことが大切なのではないかなと思います。	女性	30 歳代
年配者が今の世の中の考え方を少しずつ理解していくこと。男女の役割的な子育てをしないこと。	女性	40 歳代
まず、男性優位社会を生き抜いてきた世代の意識改革が必須。子供は大人を見て育つ。夫婦で家族で地域で歩み寄る大切さを学ぶきっかけがあれば良いと思います。	男性	30 歳代
町民の考え方が古い。年齢が高くなるほど男女平等ではない『女のくせに！』という物の考え方が通っている。育児・介護は女がするものだと当事者も役所側の人も思いこんでいる、役場の人は変です！	女性	70 歳代
家庭の中でこうあるべきという概念が障壁となっているように思うので、子供の頃からの教育が大切だと思う。また個々の生活において、各々大切にしたいものが違うと思うので、大切にしたいものを大切にできる時間的な融通が効く職場が働きやすく、働き続けていくことができる理想だと思う。	女性	60 歳代

③町民の理解促進、啓発活動の必要性(研修・講演会、学ぶきっかけづくり等)

意見内容	性別	年齢
高齢者にも平たく分かりやすい講演などを実施してほしい。	男性	70 歳代
男女の区別なく、能力を生かせるよう、 研修の機会 をふやしていく。	女性	60 歳代
男女が共に参画できるまちづくりには、制度を整えるだけで満足せず、 町民みんなが理解出来るような取り組みを行う必要がある と考えています。新しい取り組みを行うのは容易では無いとは思いますが、男女平等な社会が作れたらとても生きやすい世界になると思っています。頑張ってください。	回答したくない	20 歳代以下
実行が早くできるように役場内で取り組んでください。そしてその計画を 町民に発表会 して下さい。いつ始める予定なのかある程度の目安の日を切って町民に知らせてください。アンケートから日にち開きすぎると人の関心は薄れます。	男性	40 歳代

④女性の社会進出、女性の声の必要性

意見内容	性別	年齢
会議や集まり事に子供がいるとなかなか参加できず、若い女性等が参加する機会が少ない。子供連れでも大丈夫という雰囲気、街全体にできれば、 女性も、いろんな事に参加やチャレンジ ができるのではないかと思います。	女性	40 歳代
子育てしやすい環境を整えてほしい。学童保育の利用制度を夏休みのみや、月数回や、上の子の授業が終わるまでだけとか、見直してほしい。こどものお迎えなどを考えると地域の活動に参加し辛いし、しようと思えない。扶養範囲で働ける金額の制度も各会社によって違うから分かりにくい。お金に余裕がないので、そもそも上郡で子育てしたり地域活動に出ようと思えない人が周りに多い。	女性	30 歳代
参画しやすい様に今迄の規約等で変えたほうが良いものは どんどんハードルを下げて参画しやすい様にする 。	男性	60 歳代
保育園の受入児童の拡充、および保育時間の延長の実現によって 女性、男性ともに社会活動への参加も積極的に できるのではないかと。	男性	30 歳代

⑤役場等の公的機関の男女共同参画、理解向上の必要性

意見内容	性別	年齢
様々な問題があるかもしれませんが、行政等の場においては、 可能な限り女性の採用比率を高めたり、高ポストへの登用を図るなどの努力(配慮) をしてほしいと思います。また、議会においては女性が立候補しやすい環境の醸成も必要かと考えます。 女性目線を生かしたまちづくり は、少子高齢化が進んだ上郡町において大変重要になると思います。	女性	20 歳代以下
上郡町において、 町議や役場の課長を男女半数に近づけるよう努力 する。	男性	70 歳代
だんだんと女性の活躍できる状態になりつつある。女性の意見を聴く耳を！ 町幹部のみなさまが理解 しているようにみえております。	女性	60 歳代
役場の正職員に男性が多く、 考え方に偏りがある ように思います。女性の働きやすい環境を率先して整え、女性の正職員を増やし、 他の企業のモデルとなるような職場 にしてください。	女性	50 歳代

⑥効果的な取り組みの必要性

意見内容	性別	年齢
ステップを踏んで取り組むべき。具体的な展開テーマは分かりませんが、現在行われている活動など身近なものから展開。全ての年代、生活環境の人たちではなく、目標を絞って進めた方が、理解を浸透しやすいと思います。抽象的な意見となりますが...	男性	60 歳代
男女が共に参画する事が大事ならそのような機会を増やす事がいいと思う。どこよりも早く、上郡が取り組み、ニュースに一番出られるくらいになれば！	男性	40 歳代
行政主導ではなく、やる気のある NPO や外部団体の活動促進を行う。市外在住の職員も多いと思うので、行政主導だとあくまでも仕事という位置付けになります。NPO や外部団体は上郡に居住の人が担うので、日常なので本気で取り組んでくれる。そういう団体を増やして行かないと、行政職員自身も市内・市外関係なく後々仕事が増加して、しんどくなると思う。	男性	30 歳代
他の市町では、どんなプランをすすめて成功できていますか？いきなり意見を求められても困ります。他市町ではこういうことがあります、どんな方向が上郡には良いでしょうか…とかいう意見の求め方を希望します。町職員の方々、関わっている方々の提案を求めます。	女性	60 歳代

⑦働ける場所の創出の必要性

意見内容	性別	年齢
男女平等の町づくりも必要だが、企業誘致を積極的に行ってほしい。(若い人がどんどん町外に出ていくので…)	女性	40 歳代
若者の職場が無い	男性	60 歳代
まずは若い世代が住みやすい町にしないといけないと思う。周りの市に比べると子育て支援もまだまだだと思うし働く場所も少ない。男女がともに参画できるまちづくりの前に徐々に減り続けている人口を増やすところから考えたほうがいいと思う。	女性	40 歳代
若い人達が働ける会社等が無いに等しいので上郡には住めなく出て行くので、会社をもっとあればいいのに！！無理だろうけど。楽しいイベント、年よりでも行たくなるコンサートとかあればいい	女性	60 歳代

⑧子ども時代からの教育の必要性

意見内容	性別	年齢
長い計画ですが、子供の時からの教育から考えていかなければと思う。今、若い人も子供の育児や、家事の手伝いをしている姿はよく見かけるようになり、ちょっとうれしくなりますが、やっぱり女の仕事は大変だと思う。お互い理解と協力という事でしょうか。	女性	70 歳代
男女平等について学校でも授業を増やす。上郡は年配の方が多いので余計に男が仕事、女が家庭を守るという考えが多いと思う。共働きが増えているので男女どちらも家事をするのが当たり前になっている事を理解するよう大人も参加できる公演会を町で企画するのはどうか。	女性	20 歳代 以下
子供の教育の充実。	男性	30 歳代

⑨男性の家事・育児参加支援の必要性

意見内容	性別	年齢
男性が休日の子育てをしやすくする為に、(土)(日)(祝)ももっと子育て学習センターなど子どもが使える施設を開放してほしい。	女性	30歳代
男性が休業した場合の世帯収入補償などまたは免税などが有れば生活しやすい。	男性	40歳代
男性の育児教育、男性の料理教育、育児所の充実、幅広い時間帯の受け入れ、女性の自治会長	男性	30歳代
男女平等と言っても仕事内容においては適材が必要です。男子も料理、洗濯、清掃する世の中になってきていますから、誰でも参加できる家庭プロジェクトがあったらいいと思う。家事とは楽しんでするをモットーに企画があれば参加します。	女性	60歳代

⑩「男女平等」「男女共同参画」に対する疑問等

意見内容	性別	年齢
性別ごとに有利な場面はあるし、それを改善する必要もないと思うので、あまり男女平等という言葉は出すべきではないと思う。	男性	30歳代
そのような事はしなくていい。	女性	20歳代以下
適材と適所の数が一致することはない。不平不満を拾うも大切だが満ち、足る生活(人生)を拾い紹介するのも役に立つ。(と思う)	男性	70歳代

⑪上郡町の地域性による困難さに関する意見

意見内容	性別	年齢
上郡町・区・各集落の年長男性・女性が年下(20歳以上の人への暴言、態度)相手に対して萎縮させることが多く聞かれる。	男性	70歳代
高齢者が多く長くつちかしてきた常識を変えるのはとても難しいことだと思います。若い世代への介入を増やすことで少しずつでも男女共同参画へと変わることを期待しています。わかりやすいPTA活動や役場業務からとりかかるのもよいと思います。県外から嫁いだ私としては、上郡町は住んでいる方が閉鎖的で独特であると感じることが多いです。協調性に欠け、共同生活に適さず人の忠告は受け入れず、自分の言うことは聞けと言った態度をとる方を見るにつけ、いつも恥かしく思っています。UIターンなどを行い、新しい地域や他県の長所を学んできた方を増やし、地域を活性させていくのもひとつの手段かと考えます。	女性	50歳代

⑫アンケート調査に対する意見

意見内容	性別	年齢
若い人の意見をもっと集めたいと思うのであれば、もっと簡潔にしたほうが良いと思います。年配の方も同様だと思います。	女性	20歳代以下
男女共同参画、男女平等とは何。このアンケートは、男は～でしたがこれからは男性も今まで女性が担っていたことをする、という事に重点をおいた質問が多いと思います。一人一人が、どのように生きていき考えを持っていくのか、ということが大切な事だと思うのですが。	女性	60歳代

⑬「男女」に拘りすぎない、一人の人間としての意識

意見内容	性別	年齢
男性・女性という前に人間である。人として生きる上のマナーなどを理解し協力しあえたら、支えあえたなら「良いな！」と思う。社会はかなり平等を考えた社会になってきている。	女性	60 歳代
男女が平等に同じことを行うのではなく、その人が出来ることでまちづくりを進めるべき。議会などで男女同じ量の人を入れるのではなく議論ができる人を男女関係なく入れるべき。	男性	20 歳代 以下

⑭町行政・町への不満

意見内容	性別	年齢
上郡町の行政に信頼や興味がなく、参画する価値がない。町民に役立つ事にもっと働きかけをするべきだ。	男性	20 歳代 以下
地域に対する平等性が足りないのでは…。参画内容が伝わってこない。上郡町に信頼、魅力がない事に問題あり。	女性	30 歳代

⑮男女がともに働きやすい職場づくりの必要性

意見内容	性別	年齢
男性社会の中で、長時間労働し、同等の立場で働き、育児を両立することは、不可能です。(核家族では)今後共働きが当たり前になりました、結婚を選ばない個人が増えてくると思われますので、一人一人が豊かに暮らせるよう、町政の中で力を入れていただきたく思います。子どもたちが安心・安全で暮らせるよう、まずは、大人の意識改革が必要であると考えています。	女性	40 歳代
就職の採用の際に採用人数を男女平等にする。	女性	20 歳代 以下

⑯性別による違い・特性の尊重に関する意見

意見内容	性別	年齢
男女平等は、大切ですが、何もかも同じにする必要はなく、性の特性を生かした取組みや推進が望まれるのではないかと。	男性	60 歳代

⑰話し合い、憩いの場等の必要性

意見内容	性別	年齢
話し合いの場があると色々と話題が出ると思います。	女性	70 歳代

⑱世代交代、若者活躍の必要性

意見内容	性別	年齢
上郡町における、様々な団体の役職に積極的に女性を登用すること。又、若い方の活躍を促進すること。永年にわたる役職を続けておられる方については、交代して新しい風を入れることを望みます。	女性	70 歳代

⑱高齢者活躍の必要性

意見内容	性別	年齢
上郡町はお年寄の多い町、お年寄がもっと元気でいられるような、お年寄のための町にしたいと思う。家で年金もらっているだけの人も、何かしら動きたいと思っているはず、行く所がないだけです。	女性	40歳代

⑳被害者支援、相談支援の充実の必要性

意見内容	性別	年齢
男性も女性も差別なく活動ができるように相談ができる環境を作ってよりよい生活が身に付くような活動をしていけたらいいと思います。	女性	20歳代以下